東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 146　July. 1. 2016

発行　公益社団法人
日本山岳会東海支部
〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCﾋﾞﾙ
電話：052-332-8363　FAX：052-322-7924
郵便口座 00800-5-13749「日本山岳会東海支部」
銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店
普通1222073「日本山岳会東海支部」
編集　星　一男
印刷　㈱ 浅井隆文社

Bravo Peak（3105m）北壁のバリエーションラインを初登する（本文P10に詳細）

目　次

○支部長就任にあたって　高橋玲司　2
○支部長退任の挨拶　小川　務　3
○H28年度支部通常総会　毛利邦男　4
H27年度事業報告　5
H28年度事業計画　6
H28年度役員・H28年度組織図　7
○鈴鹿コグルミ谷滑落事故報告　山田明美　9
○ワディントン山群登山報告　山田利行　10
○第4回夏山フェスタ　毛利邦男　12
○知的障がい者支援登山の歴史と第17回SON・愛知支援登山　前田隆久　13
○「第15回東海岳人写真展」報告　井上寛之　14
○コグルミ谷での滑落事故に思う　安藤忠夫　15
○東海岳人列伝（3）　西山秀夫　16
○リレーエッセイ⑥　尾上　昇　19
○東海支部の蔵書からの一冊⑧　石田文男　21
○同好会コーナー　読図会/塩の道/スケッチ　22
○支部友コーナー　金谷正起　24
○委員会報告　読図会/亀の会/写真展　25
○会務報告　毛利邦男　27
○ルーム日誌・会員異動　酒井　広　29
○INFORMATION　30
○編集後記　星　一男　31

http://www.jac-tokai.jp　E-mail room01@jac-tokai.jp　E-mail room01@muse.ocn.ne.jp

支部長就任にあたって

支部長　**高橋 玲司**

このたび東海支部の総会におきまして支部長に就任いたしました高橋玲司です。簡単に自己紹介させていただきます。年齢は46才、妻と小２と中２の娘がいます。仕事は、農業団体の職員です。住まいは岐阜市です。

年齢は、若いのですが、実は東海支部との関わり合いは、随分前からです。父達雄が東海支部設立時のメンバーであったことから、私自身も18才で愛知学院の山岳部に入部しましたことがご縁で東海支部に携わってまいり、今年で28年になります。

先ずもって皆様にご理解賜らなければならないことがあります。岐阜市のはずれの自宅からルームまで1時間半かかります。今現役のばりばりの仕事世代です。子供もまだ小さく家庭への気配りも重要な時期です。この様なハンディキャップを抱えていますので、正直今迄の支部長の皆さんのように果たして支部長としての時間的な対応が割けるかどうか不安です。精一杯努めさせていただくつもりですが、ひょっとするとご迷惑をお掛けする場合もあるかも知れません。何卒ご理解を賜りましてご容赦下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、就任にあたりまして、所信の一端を述べさせていただきます。次の３点をマニフェストとして上げさせていただきたいと思います。

先ず初めに**「安全第一」**です。私の尊敬する三重県岳連の居村年男氏がいつもおっしゃっていますが、世界で年間300名ほどの人が山で命を落としたり行方不明になっています。山をスポーツの一つのジャンルとしますとそのようなスポーツは他に類を見ません。競技中に年間300名も命を落とすスポーツが仮にあったとしたら非難ごうごう即座に消えてしまうでしょう。東海支部でも昨年350名の支部員の中から2名の尊い命が失われています。山登りは、命をかけて生きるか死ぬかであってはならないのです。

昨年度より技術向上委員会が立ち上がりました。主に山行リーダーのスキルアップを目指すものです。遭難対策委員会と共に各委員会が連携して事故防止に取り組んでいただきたいと思っています。「絶対事故を起こさない」を支部一丸となって誓いましょう。

新支部長　高橋玲司氏

次に**「一体感を持つ」**です。現在東海支部は、日本山岳会の各支部の中で最大で最も活発な支部として知られています。その原動力となっているのが21の委員会、9つの同好会と4つの支部が主導する組織、すなわち支部友会、猿投の森づくりの会、東海ユース、東海学生山岳連盟です。

しかし、同じ支部であってもこれだけ沢山のグループの存在は、決してお互いの連携が保たれているとは言えず、また支部の大きさから支部員同士の交流が中々図られていないのも事実です。東海支部の活動を通して支部員同士の交流が図られることによって一体感が生まれ支部活動がますます活性化されるのだと思います。そうした場の提供も事業活動の中に取り入れたいと思います。

３つ目は、**「№１を目指す」**です。2010年のことですが、私は、今は亡き田辺 治さんとある約束をしました。田辺さんは、ダウラギリの登山を機に最前線から退き、若手を指導する旨を話してくれました。ついては、「高橋君は、若手を育ててくれ。俺は、その中からヒマラヤを目指す次世代のナンバーワンクライマーを育てるから」です。丁度その頃、私は、東海支部学生山岳連盟の再設立を促し、若手の育成に取り組み始めた時期でもあり、田辺さんの想いとまさに一致を見たのです。

今は、支部員各位のご理解とご協力のお陰で、学生山岳連盟そして東海ユースという若い連中の存在が支部の中でも重要な位置を占めるようになってきました。その田辺さんですが、ご存知の通り皮肉なことにダウラギリに散ってしまいました。残念としかいいようがありません。今は亡き田辺さんの残した言葉を受け継ぎ、東海支部の中から世界に通じるナンバーワンクライマーを育てたいと思っています。

更には、山の世界には、様々な切り口、求められるジャンルが無限といってもいい程沢山あります。支部員の皆さんに申し上げます。そうした様々な分野で自分の実力の範囲の中での自分のオンリーワンを生み出して下さい。すなわちそれも皆様のナンバーワンなのです。

以上３つの取り組みを申し述べました。こうした私の思いの実践には、支部関係者の皆様のご理解とご協力なくしては成し得られません。是非各位のご支援を賜りたくお願い申し上げる次第でございます。

支部長退任の挨拶

前支部長　**小川　務**

2010年4月から4年間の任期のはずが、本年まで6年間も支部長という大役を務めさせていただき、このたびの総会で若手の高橋新支部長に引き継ぐことができました。

長い間支えていただいた支部員の皆様に心から感謝申し上げます。

特に、この任期の前半にあたる2010年から2013年は尾上昇第23代日本山岳会会長の就任期と重なり、山岳会本部の4つのプロジェクト（①法人改革対応　②JAC-Youth ③支部活性化　④山の日制定）を積極的に支援し、特にJAC-Youthの支部版としての東海-Youthの育成、さらに、数多い支部事業を成功させることが支部の活性化や会員数の拡大及び若年層の確保につながると確信して実践し、具体的な成果を残してきました。

2010年5月の総会資料によると、当時の会員数は251名でしたが、今年には350名に増加し、1年間で20数名の若年会員も入会しました。

現在、東海支部に求められているのは、既存会員や若年会員の登山や遭難防止技術の向上です。これも、東海支部では、片岡泰彦副支部長が担当する技術向上委員会が活動をスタートしました。

小川　務 氏

また、東海-Youthの育成や遭難対策を山田明美副支部長が担当してくれていて、さらに学生部など若年対応については、知識と実績がある高橋新支部長の手腕に期待したいと思っています。

私自身も新支部長の「日本一の東海支部づくり」に協力していく所存です。皆様ご支援ありがとうございました。

「山の日」のイベントについてのお知らせ

既にご存知のように８月 11 日が国民の祝日「山の日」となり、本年はその最初の年になります。「山の日」の趣旨は≪山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日≫となっています。

東海支部では当支部になじみのある御在所において三重県山岳連盟と連携しつつ山頂付近におけるイベントを企画しています。具体的な内容はホームページ等を通じてお知らせします。

「山の日」事業本部　佐野忠則

平成２８年度支部通常総会

総務委員長　**毛利邦男**

平成28年度支部通常総会

5月21日（土）平成28年度東海支部通常総会が東海支部に隣接する高砂殿で開催された。

定刻の午後5時から毛利総務委員長の司会で始まった。小川支部長から挨拶につづき審議に入った。支部規約第15条2項により小川支部長に議長委嘱の後、支部規約17条1項にもとづき定足数の確認をし、議事に入った。

第一号議案として、平成27年度の事業報告と決算報告が上程された。毛利総務委員長の事業報告に関する説明と市川会計の決算報告に関する説明および野呂監事から全て適正であるとの会計監査報告を受け表決の結果、第一号議案は承認された。続いて平成28年度の新体制について第二号議案が上程され、小川支部長より平成28年度役員案および組織図案について説明があった。役員については支部長交代を含む大幅な変更が表決に付された。小川支部長が退任し高橋玲司副支部長が新支部長に昇格、片岡康彦会員が新たに副支部長並びに技術向上委員長と海外登山委員長に就任。和田氏が猿投の森づくりの会代表を退任し監事に就任、柴田副支部長が退任し評議員に就任、野呂邦彦監事兼遭難対策委員長が退任、山田副支部長が遭難対策委員長を兼任することとなるなどであった。表決の結果、第二号議案は承認され平成28年度は新体制で船出することとなった。

つづいて平成28年度事業計画案及び平成28年度予算案が上程され山田副支部長と市川会計がそれぞれ説明。表決の結果、第三号議案

懇親会の会場

小林政志日本山岳会会長の講話

は承認された。最後に上程された年度途中の入会者の入会年度の年会費を月割にする為の第四号議案会則の改定については、施行年月日を平成28年6月1日に修正のうえ承認された。

議事終了後、高橋新支部長が就任の挨拶並びに抱負を述べた。

つづいて来賓として東京から駆けつけていただいた小林政志日本山岳会会長より日本山岳会の現状と将来像についての講話をして頂いた。

収益事業として立ち上げた高尾山における「山の弁当」の販売に期待していること、会員サービスとして検討してきた会員カードによる各種割引サービスが、近く実現する見通しとなったとの説明など、中身の濃いスピーチであった。

懇親会

総会終了後は、場所を別室に移して懇親会が開かれた。高橋新支部長の挨拶と乾杯で始まり、大いに盛り上がった。飛び入り参加が非常に多く用意した食事は瞬く間に完食となってしまったが、小林会長の周りには終始大勢の会員が集まり懇親会を大いに楽しんで頂いた。最後は山田副支部長の中締めで閉会となった。

平成27年度事業報告

期　　日	内　　容	担　　当
Ⅰ公益事業		
(1)登山に関する文化・学術の振興事業		
12月	110周年記念出版事業の一環としてインドヒマラヤ登山の記録及び地域研究をまとめた「インド・ヒマラヤ」の発刊	インドヒマラヤ編集委員会
毎月第3土曜日	猿投の森　自然観察会	猿投の森づくりの会
7月～３月	わいがや講座	猿投の森づくりの会
1月	講演会「立山・剱岳における現存氷河他について」	総務委員会
2月	講演会「小説『氷壁』とナイロンザイル事件」の開催	支部友委員会
(2)児童・青少年の育成事業		
4月25～26日	知的発達障害者支援登山、SON愛知と協働　朝明渓谷 参加者　アスリート7名、保護者7名、SON愛知7名、東海支部34名	ボランティア委員会
9月26・27日	御在所フェスティバル(ゴザフェス)	青年部
10月１７日・31日	親と子のふれあい登山教室　ー尾高山 のべ参加者　親子94組188名、スタッフ18名、東海支部27名	ボランティア委員会
11月14日	ひなご幼稚園「森の探検隊」-森の話とクラフト	猿投の森づくりの会
(3)スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
４月～９月	登山教室前期開講（中日文化ｾﾝﾀｰ登山教室、朝日カルチャー登山教室、NHK文化センター―登山教室、中日文化センター山ガール登山教室）	登山教室委員会
6月20日～21日	夏山フェスタへの協力	夏山フェスタ実行委員会
10月～３月	登山教室後期開講（中日文化・朝日ｶﾙﾁｬｰーの2講座のみ）	登山教室委員会
3月15日～20日	第15回東海岳人写真展の開催 出展数　９７点、入場者　2501名	写真展実行委員会
(4)事故防止事業		
4月～３月	読図山行　計11回実施	図書委員会
随時	チェンソー慣熟訓練・安全教育	猿投の森づくりの会
通年	携帯電話とメールによる登山届の提出促進	遭難対策委員会　デジタルメディア委員会
(5)国際交流事業		
8月12日～19日	日中韓学生交流登山(中国武漢)-東海支部から5名参加	青年部
(6)その他目的を達成するための事業		
5月10日	春のブラインド登山(屏風山) 参加者　視覚障がい者11名、同伴者4名、東海支部28名	ボランティア委員会
10月24日	森の音楽祭(参加者　合計532名)	森の音楽祭実行委員会
11月3日	秋のブラインド登山（釜ヶ谷山） 参加者　視覚障がい者11名、同伴者３名、東海支部27名	ボランティア委員会
2月6日～7日	雪山ブラインド登山（六つ星山の会と共催） 参加者　六つ星山の会24名、JACYouth5名、東海支部10名	ボランティア委員会
(7)山岳環境保全事業		
通年	猿投の森、山桜フィールド及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
毎月２回	定例作業	猿投の森づくりの会
6月14日～15日	自然観察山行(山辺の道・三輪山・春日山の原始林など）東海支部から12名参加。	自然保護委員会
7月11日～12日	JAC自然保護全国集会、青梅市にて（多摩支部主催/東海支部から5名）	自然保護委員会
9月27日	清掃登山、水晶岳、（HAT-Jと協働）、参加8名	
10月24日～25日	森の勉強会（関西・京滋・東海共催）、京都市臨済宗妙心寺・嵐山周辺、参加26名(内東海支部5名)	自然保護委員会
11月～3月	猿投山観察・調査山行(5回実施)	自然保護委員会
11月28日	猿投の森　法人会員デー	猿投の森づくりの会
通年	両棲類および哺乳動物の生態調査	自然保護委員会

II共益事業

通年	支部山行（計画47回、実施34回),参加人員延293名	山行委員会
通年	支部友山行(計画37回、実施27回）参加　延226名	支部友委員会
随時	支部友ミーティング（計画6回、実施6回）	支部友委員会
通年	定例山行（実施９回、参加延212名）と自主山行（４回実施、参加152名）	亀の会
通年	定例山行（18回実施、参加延184名）と自主山行（62回実施、参加延150名）	東海ユース
4月	ファーストエイド講習会、明神2263峰他	青年部
5月	岳沢合宿、猿投山読図講習会、御在所前尾根、白馬主稜、宮之浦岳他	青年部
6月	南山クライミング、御在所前尾根、定光寺クライミング、乗鞍岳、国立登山山研安全登山研修参加、前穂高岳北尾根他	青年部
7月	小川山合宿、富士山、空木岳、御在所前尾根、天上山、錫杖岳　他	青年部
8月	赤木沢、御嶽山、槍ヶ岳、大キレット、木曽駒ヶ岳、鳳凰三山他	青年部
9月	剱岳合宿、錫杖クライミング、八ヶ岳、北鎌尾根、瑞浪クライミング、小川山クライミング　他	青年部
10月	錫杖クライミング、空木岳、御在所前尾根、富士山、表妙義山、八ヶ岳　他	青年部
11月	小川山クライミング、後立山南部縦走、燕岳、御在所前尾根、雑穀谷クライミング、天下峰クライミング他	青年部
12月	伊木山クライミング、雪上訓練、北アルプス縦走、木曽駒ヶ岳、蝶ヶ岳、八ヶ岳　他	青年部
1月	八ヶ岳合宿、御在所アイスクライミング、西穂高北西尾根、伊木山クライミング、八ヶ岳クライミング	青年部
2月	爺ヶ岳東尾根、毘沙門岳山スキー、蓮華岳東尾根他	青年部
3月	鹿島槍北壁、乗鞍岳山スキー、金糞山、加賀大日岳他	青年部
通年	各種同好会が企画する各種山行。	同好会
1月16日(土)	支部新年懇親会（高砂殿）	総務委員会

その他
支部報　年4回発行　　No.141(4月)　No.142(7月)　No.143(10月)　No.144(1月)支部ガイド　7月

平成28年度事業計画

期　日	内　容	担　当
1.公益目的事業		
(1)登山に関する文化・学術の振興事業		
毎月1回	猿投の森　自然観察会	猿投の森づくりの会
通年	樹木調査	猿投の森づくりの会
毎月1回	わいがや講座	猿投の森づくりの会
(2)児童・青少年の育成事業		
4月23・24日	SON・愛知支援登山　朝明茶屋をベースに朝明渓谷・根の平峠～水晶岳	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル	青年部
１0月15日・29日	親と子のふれあい登山教室　(尾高山)	ボランティア委員会
11月	森の探検隊（幼稚園児森林体験）　　猿投の森	猿投の森づくりの会
(3)スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
	中日文化ｾﾝﾀｰ登山教室　開講　（年２期開催　１期６ヶ月）	登山教室委員会
	朝日ｶﾙﾁｬｰ春期登山教室開講	登山教室委員会
5月29日	春のブラインド登山(視覚障がい者支援登山），美濃池田山	ボランティア委員会
6月11日・12日	夏山フェスタ　への協力	夏山フェスタ実行委員会
	中日文化・朝日ｶﾙﾁｬｰ・NHK文化　各センター秋期登山教室　開講	登山教室委員会
１１月初旬	秋のブラインド登山（視覚障がい者支援登山）	ボランティア委員会
2月	雪山ブラインド登山	ボランティア委員会
随時	合宿訓練	青年部
(4)事故防止事業		
随時	指導者養成訓練	技術向上委員会
随時	事故防止講座の開催	技術向上委員会
6月	地図読講習会	青年部
秋	チェンソー慣熟訓練	猿投の森づくりの会
随時	遭難予防講習会　山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員会・山行委員会・青年部

(5)山岳環境保全事業

通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
通年	JAC山桜フィールド整備	猿投の森づくりの会
通年	人工林・遊歩道・幹線林道・管理車道整備	猿投の森づくりの会
通年	植生・草本類など保護育成位整備	猿投の森づくりの会
6月19日	HAT-Jとの清掃登山、猿投山	自然保護委員会
通年	定点カメラによる猿投の森哺乳動物の継続調査	自然保護委員会
月1回	猿投山観察・調査山行	
7月16日～17日	JAC自然保護委員会全国集会，高知市(四国支部主管)	自然保護委員会
9月8日	自然観察山行	自然保護委員会
11月5日～6日	第20回森の勉強会（関西・京都・東海共催），　奈良市　春日大社	自然保護委員会
(6)国際交流事業	日中韓学生交流登山隊の派遣(韓国)	青年部
(7)その他目的を達成するための事業		
10月22日	森の音楽祭　と自然観察会他	森の音楽祭実行委員会

2.共益事業

4月29日～5月1日	春合宿、岳沢	青年部
7月　小川山合宿	12月　雪上訓練　1月7日～9日　冬山合宿	青年部
5月21日	支部通常総会	総務委員会
年6回（隔月）	支部友ミーテング	支部友会
毎月3～5回	支部友山行	支部友会
年間45回程度	支部定例山行	山行委員会
毎月1回	亀の会定例山行	亀の会
随時	自主山行（日帰り＋宿泊山行）	亀の会
毎月２回	東海Youth 定例山行	東海Youth
随時	東海Youth 個人山行　(年間60～70回)	東海Youth
随時	写真撮影山行	写真展実行委員会
1月14日	支部新年懇親会　(場所未定)	総務委員会

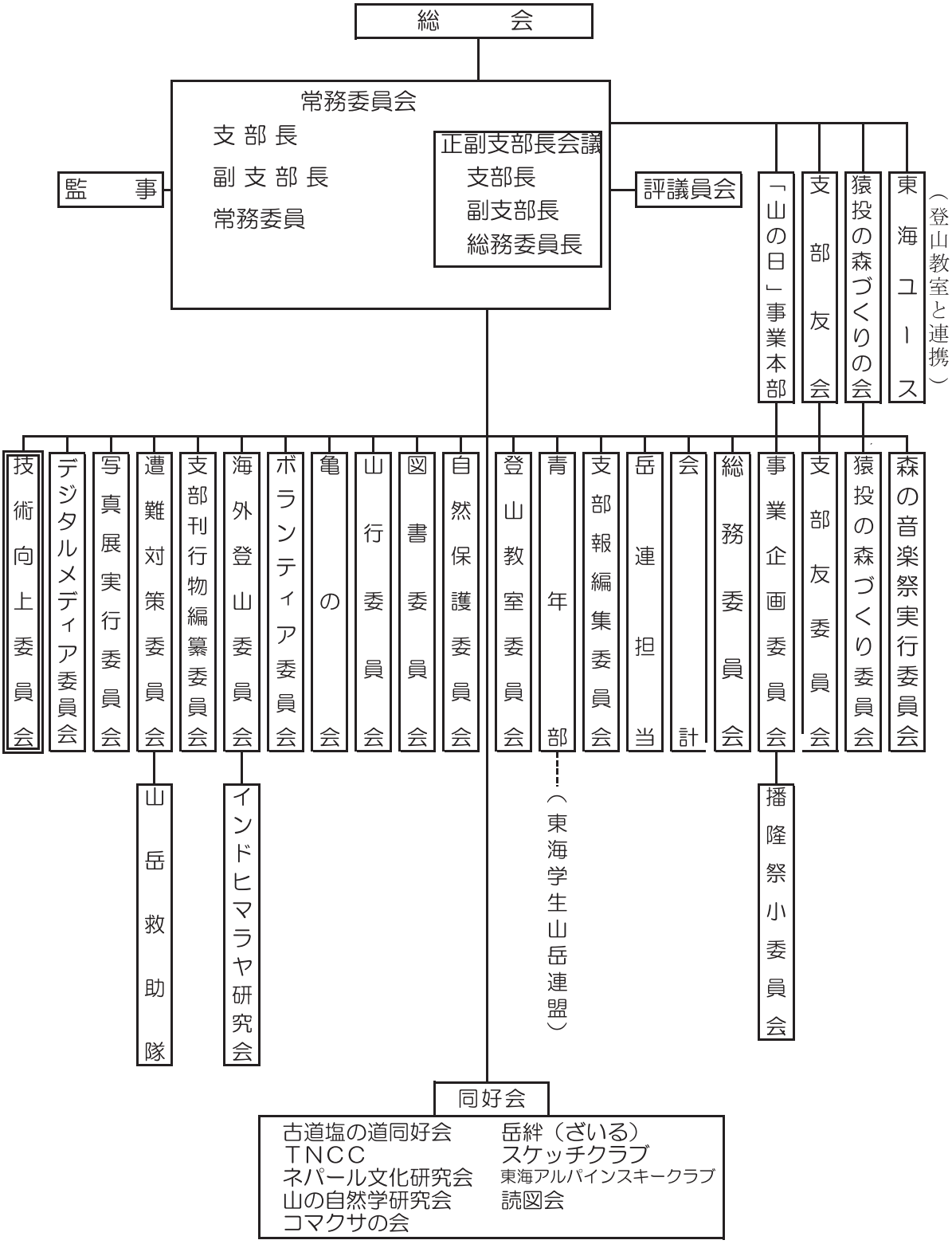
平成28年度 役員

名誉支部員	石原國利				
支部長	高橋玲司				
副支部長	山田明美	佐野忠則	片岡泰彦		
監事	中世古直子	和田豊司			
常任評議員	尾上　昇				
評議員	石川富康	大口瑛司	杉田　博	長坂　博	箕浦靖夫
	横田明信	鈴木常夫	梶田民雄	橋村一豊	柴田清康

常務委員会	委員長	常務委員会	委員長
猿投の森づくりの会	小川　務（代表）	登山教室委員会	天野俶明
「山の日」事業本部	佐野忠則（本部長）	自然保護委員会	南川陸夫
東海ユース	山田明美（代表）	図書委員会	石田文男
支部友委員会	尾上　昇	海外登山委員会	片岡泰彦
総務委員会	毛利邦男	技術向上委員会	片岡泰彦
会計	市川義行	ボランティア委員会	前田隆久
岳連担当	市川義行	支部刊行物編纂委員会	星　一男
山行委員会	鈴木慎吾	遭難対策委員会	山田明美
亀の会	加藤守彦	写真展実行委員会	井上寛之
支部報編集委員会	星　一男	森の音楽祭委員会	箕浦靖夫
事業企画委員会	毛利邦男	デジタルメディア委員会	井上寛之
青年部	藤嵜正智	アンダーラインは前年からの変更者	他は重任

公益社団法人日本山岳会東海支部

平成28年度組織図



※２重枠は新規の委員会

鈴鹿コグルミ谷滑落事故報告

副支部長　**山田明美**

昨年の事故のショックも消えやらぬ新年早々の2月、支部員の滑落事故が発生しました。この事故は多くの問題を含んでおり、特に技術の問題だけでは有りません。他人の事故とせず、自分の行動として考えより一層の安全登山のための教訓として生かしていただきたいと思います。

１．発生日時と場所

平成28年2月7日午前9時頃(詳細時間不明)
鈴鹿コグルミ谷右岸尾根、標高670m付近

２．事故者

支部員『Ｎ氏』

３．事故発生までの状況

曇りのち晴れ、微風の天候でコグルミ谷出合(7:55)発、積雪は吹き溜まりを除けば２cm程と少なく氷化した部分が多かった。30分程登った針葉樹林帯より尾根に取り付き、右岸尾根を801mピークを目指しジグを切りながら登った。昨夜からの冷え込みで堅雪となっており、再三足が流れる状態ながら標高670m地点(9時頃)まで登行を続けた。

４．事故状況

三重岳連遭難対策講習会に参加(27名)、ラスト前3人パーティの2番目を登行中の9時過ぎ頃、標高670m付近で右トラバースに入った。歩行に不安を抱いた『Ｋ』が安定した足場を作るためにオーダーを変わった直後、上記場所でスリップ！氷化に近い凸凹の堅雪斜面(30度位)を仰向け状態で30m位滑り、傾斜が落ち雪溜まり場所で停止した。途中の樹木への衝突は無く、硬い帽子の庇で頭部2ヶ所切創、転倒した際左手甲部を打撲した。

５．応急処置(9時過ぎ～10時)

最後尾の岳連リーダーが頭頂部圧迫止血実施後、会員看護師に依る再止血処置を行う。安定した場所、状態に戻したのちケガ有無等の具合をチェックした。(ケガ部位の詳細は省略)

６．事故後の対応(下山～病院)…詳細省略

全員でロープ確保しながら歩いて下山した。

７．病院処置とその後の経過

2月7日(休日診療)…頭頂部2ヶ所擦過傷(ＣＴ検査異常なし)と左手甲部打撲(通院治療なし)だったが痛みが引かない為、2月15日及び24日再診察及び検査実施。左手首の骨折、肋骨骨折が判明しギブス固定。背骨圧迫骨折が判明した。…重傷

８．スリップ事故はなぜ起きたか…詳細省略

１）直接的原因（一次原因）

① 装備の不適正……『ゴム長靴登山』であった事。

② リーダー指示を遵守しなかった……アイゼン装着の指示を聞き流した。

２）間接的原因（二次原因）

安全登山意識の『著しい低下』……如何に山慣れしているとはいえ『安全登山』の基本をおろそかにしている。

９．再発防止へ支部の取り組み

１）各山行リーダーの指導力強化

２）安全登山講習の実施

支部のバックアップ……上記１)、２)を新規立ち上げた『技術向上委員会』を中心として、事故防止にかかわる登山活動を取り込み継続推進して行きます。

「徳本峠越えとウエストン際」に参加して

一度は行ってみたいと、かねてから思っていた徳本峠越えを今回縁あって実現でき、同行の皆さんたちと、峠から穂高の峰々を仰ぎ見ながら達成感を味わうことができ感無量であった。峠の小屋でふるまって頂いた(ウエス)トン汁の実にうまかったこと！上高地に向けて下りながら、なぜかイヨマンテの伊藤久男の歌う「山のけむり」のメロディーが、しばしば脳裏をかすめた。帰名して自分の古い記録を見たら、ずっと昔に逆コースを歩いていたことが判明。いろんな意味で驚いた。　　磯部　隆

ワディントン山群登山報告

山田利行

ワディントン山群登山における成果
「パイオニアワークと若手の成長」

主目的であった山群の縦走計画は敗退となってしまったが、ブラボーピーク北壁バリエーションラインとアスペリティ南西壁で新たなラインを引くことができたこと、日本人として初めてアラスカやパタゴニアに匹敵するこの山域での登山という成果は東海支部が受け継ぐ伝統「パイオニアワーク」の実践であった。また、東海支部期待のホープ菊池にとっても初めての長期登山と氷河経験を十分すぎるほど体験できた登山であったと思う。

ブラボーピーク北壁　バリエーションライン初登と地獄からの生還

初めてのヘリに興奮気味に乗り込んだ私達はたった20分のフライトでワディントン山群の氷河上に降り立った。ティードマン氷河上にあるレイニーノブに手早くBCを設営し、明日は足慣らしを兼ねて一番近くのブラボーピーク北壁の既成ルートに取り付くことにした。

取り付いてすぐ雪壁を登っている時に上の尾根に陽が当たり始めた。危険を察知しトラバースを開始した瞬間上から一気に緩んだ雪がさっきまでいたラインを流れて行った。「あぶね～」。二人と合流して興奮気味の菊池から話を聞くと下でも違う斜面から雪崩が起きて菊池に直撃したという話を聞き連携を密に取ることを確認した。雪崩を避けるため既成ルートから外れた私達は周りの状況と勘を駆使して下部岩壁を越えた。次の日、快適な上部岩壁を越えて昼過ぎには頂上に立つことができた。頂上からは主峰ワディントンやヒマラヤ襞の綺麗なスピヤーマンの壮大な景色が広がりこれからの登山がワクワクしてくる。

下降では私の登山人生最大のミスをしてしまった。ブラボー氷河側へ降りるべき所を反対側の傾斜の似た無名氷河をおりてしまったのである。来た斜面を登り返すことはできず、近くの尾根の斜面を戻る事にした。私が掻き分けた雪が下の雪を巻き込み「気を付けろー」と声をかけたが、菊池が全身で雪崩を受け止め押し流されてしまった。ロープを引っ張られ私も耐え切れず斜面を転がり落ちる。すごいスピードで転がり視界は何もないが意識はしっかりしていて何とか体を横にしてアックスを雪面に刺さなくてはともがこうとした時、体が雪面に埋まり体が止まった。すぐに起き上がると小さなクレバスに引っかかる形でかろうじて止まっていた。菊池もクレバスの間にきちんと座る形で止まって呆然としていた。同じ失敗はもう繰り返せない。全員が重苦しい緊張感に包まれ無言のまま生きて帰るために最善を尽くした。正規のブラボー氷河に出た時は本当にホッとし、BCに戻ると一気に緊張感から解放され三人とも興奮状態に陥っていた。

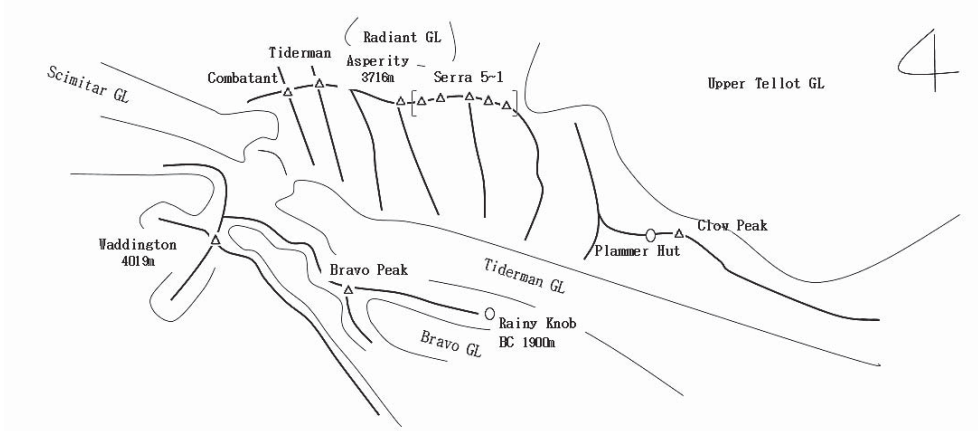
ワディントン頂上(4,011m)　山田・菊池

アスペリティ南西壁「Happy Trio」
(ED-,5.10a,WI3,950m)初登

ブラボーピーク北壁から命からがらBCへと戻って来た私達は体を休めながら前回の反省と次なる目標を話していた。ティードマン氷河の反対側に位置するコンバタント～アスペリティの南面側はすでにカラカラに乾いた壁を私達に見せている。「これはもうロッククライミングしかないな～」という話になった。偵察を終え次の日すぐに取り付いた。壁に近づいていくと他にも見えていたラインの可能性が消えていき最終的に１本のラインへと自然に入りこんでいった。

想像できるだろうか。暖かな太陽を背に受け、広大な氷河を足下に見下ろしながら、プロテクションの良く取れる花崗岩にスメア！！シュラフカバーだけのビバークは流石

ワディントン概念図



に寒かったが、陽が長いカナダはたった６時間我慢すればいいだけだから楽である。朝一早々に中間部の雪田に出てコンテで上部岩壁へと向かう。壁の最後は頂上へと続く１本のナイフリッジになりほぼ頂上直下まで登ることができ素晴らしい。

頂上からは気高く聳え立つワディントンを正面に見ることができ、更に山群の縦走をする上で核心部となるセラスの岩塔群と反対側の氷河の状況を把握することができた。良いクライミングができ三人の息も合ってきた。これで縦走への準備は整ったように見えたのだが。

最初で最後の縦走挑戦

アスペリティから帰った私はブラボーで雪崩に巻き込まれたこと、間髪入れずにアスペリティへ取り付きしかもかなりの重荷でクライミングしたことなどが祟って持病の腰痛が悪化してしまった。元気な二人には申し訳なかったが、根気強く待つしかないと覚悟を決めた。その間に二人はクローピークまでスキーツアーリングに出かけたりしてくれ私に気を使ってくれた。ようやく腰も良くなってきたと思ったら、毎日雪の悪天周期に変わってしまった。途中敗退になったとしてもチャレンジだけはしたいというのが全員の意志だった。

なんとか２日間の曇り予報を掴み出発し、お昼前にはワディントンの頂上岩壁の取り付きまでわずか50ｍというところまで迫ったが、ホワイトアウトのため停滞を余儀なくされた。二日目、朝起きるとまだホワイトアウトで、雲が切れる、ホワイトアウトになるということの繰り返しで一向に登れそうな気配がない。夕方になり急にガスが晴れ上がった。17時に登り始め、夕暮れ前21時45分に頂上を踏むことができた。2週間ぶりのクライミングとピークを踏めた喜びを噛みしめた。

3日目、チームの中で一番経験豊富な谷が進んでリードをしてくれ、セラック帯の通過を何事もなくこなしてくれとても頼もしかった。縦走の第一目標であったW-Cコルで菊池が初日から我慢していた膝痛を訴えた。ここから先が技術的な核心部であり、延々険しい氷雪壁と岩稜帯が続く、しかも敗退も困難となるためここで話し合うことはとても重要であった。

重い口を開き、「この状態でこの先へは行けない」という菊池の判断に私も谷も異論はなかった。臆病風に吹かれて敗退を決めてしまう時とは違い、今回のように頑張れば行けるかもという状況で「行けない」と決断する時は本当に苦しい。どんな辛い状況においても愉快にギャグを飛ばし笑いあえた１か月間は本当に有意義で幸せだったと総括できると思う。

今回計画を支援して頂いた東海支部の各位、日本山岳会本部、ミレー、パタゴニア、モンベル各社にはこの場をかりて心よりお礼を申し上げる。

メンバー

谷　剛士（35）カルガリー在住
　カナダ山岳協会(ACMG)公認アプランティス
　アルパインガイド
山田利行（31）カルガリー在住
　カナダ山岳協会(ACMG)公認アシスタントハイキングガイド　東海支部青年部
菊池　徳（27）東海支部青年部

第４回夏山フェスタ開催を振り返って

夏山フェスタ実行委員会事務局　**毛利邦男**

今年も6月11日(土)と12日(日)の2日間にわたり名古屋駅前のウインクあいちの7階と8階にて夏山フェスタが盛大に開催された。7階はセミナー会場と山小屋中心の展示会場とし、8階は主展示会場の配置となり、メーカー関係25社、旅行・観光自治関係の24団体などの63の展示ブースに加え56の山小屋が参加した。

今年は前夜祭を取りやめたが、来場者数は初日3,280名、2日目4,130名で2日間の合計は7,410名を数え昨年度より大幅に増えた。今回も青年部・学生部・東海ユースの諸君がフェスタ運営業務の支援で頑張っていただいた。この場を借りて感謝の意を表したいと思う。

さらに東海支部が運営を引き受けた「山のよろず相談コーナー」では、各種相談に対応すると同時に、東海支部登山教室委員会が運営している登山教室の紹介、新規会員の募集活動(支部友会、青年部)にも努めた。特に支部友会入会に興味を示された方が昨年の2倍強もあったので、このことが会員増加につながればよいと思っている。同時に、書籍販売コーナーでは東海支部が携わった書籍に加え本部の野口いづみ理事も参加してご自身の著書も販売した。

今年から始まる国民の祝日「山の日」関連の企画も盛りだくさんであった。まず国民の祝日「山の日」をより多くの人に認知して頂くべく啓蒙のチラシを来場者全員への配布をすると同時に、「山の日」全国大会PR、“ひとこと言わせて！私が思う山の魅力と恵み”

田中陽希氏の整理券配布を待つ方々

「ひとこと言わせて！私が思う山の魅力と恵み」放談会

東海支部のコーナーを訪れた田中陽希氏（中央左）

と題した放談会が開催された。当放談会には尾上昇 日本山岳会元会長をはじめとして中部電力社長 勝野哲氏、日本プロガイド協会会長角谷道弘氏、山岳ライター小林千穂氏、中部大学教授 福井弘道氏が参加した。

ほとんどのセミナー・トークショーは満席の盛況、特にアドベンチャーレーサー田中陽希氏のトークショーには整理券を求めて多数の方が朝6時半から並び始めるという異常事態となった。そのほか、角谷道弘氏の『山登りは、わが職業』と題したトークショーと小林千穂氏のトークショー『あの山この山、楽しい出会い！』には400人超の観客で溢れていた。三重県遭難対策委員長 居村氏の『鈴鹿の安全な歩き方』、気象予報士 猪熊隆之氏の『山の天気の基礎知識』、日本山岳会・登山医学会理事の野口いづみ氏の『山での病気とケガ、その対応』と題したセミナー、登山用品セミナーで鎌田則雄氏の『山と高山植物を撮る』セミナー、また今年も行われた東海支部山行委員長 鈴木慎吾氏の『スマホを山で活用しよう』と題したセミナーにも大勢の方が熱心に耳を傾けていた。

知的障がい者支援登山の歴史と第17回SON･愛知支援登山
―東海支部ボランティア委員会の発足―

ボランティア委員会委員長　**前田隆久**

スペシャルオリンピックス日本・愛知(SON・愛知)を支援する形で行ってきた知的障がい者支援登山も、今回で17回目となった。

東海支部知的障がい者支援登山の歴史

きっかけは、2001年東海支部40周年の記念の年に「40山同一登山」の一環として、SON・愛知の知的障がい者9人に対して30人のサポート体制を組んで始まった。この時は鈴鹿・入道ヶ岳に登山した。この活動を契機に2003年、当時の第8代東海支部長の中世古隆司氏を委員長とし、第5代東海支部長の尾上昇氏を副委員長として、ボランティア委員会が発足した。その後も委員会事業として今に続いている。そういう意味では、SON・愛知支援登山と東海支部ボランティア委員会との関係性は強い。

その後、入道ヶ岳で6年行い、2007年からは場所を朝明渓谷に移して行った。2010年、第10回大会を記念して朝明茶屋での一泊の登山を行ったが、知的障がい者、その家族にも好評で、それ以降は朝明茶屋をベースに一泊の登山を続け、宿泊登山も今年で7回目を数える。ただ、宿泊登山の弊害もある。宿泊できる障がい者が限られている事で、ここ数年メンバーが固定されてきていた。活動のすそ野を拡げるためにも、できるだけ多くの障がい者に参加していただく事がこの活動の意義でもあるということから、SON･愛知と協議を進め、今回から宿泊組、日帰り組の2班に分けて募集、

丸木橋を渡る

根の平峠にて

実施する事とした。その成果として、初参加の知的障がい者が3名登山に参加した。全体で知的発達障がい者11名、その家族11名、SON･愛知スタッフ12名、東海支部他から支援者35名(内、青年部4名、学生8名)の総勢69名の大きな事業となった。

第17回SON･愛知支援登山

今回は4月23日(土)･24日(日)、朝明茶屋をベースに、宿泊組は、中峠から水晶岳、根の平峠経由の周回コース、初心者の多い日帰り組は、根の平峠から水晶岳の往復コース、そして、合同で根の平峠にて食事という設定で行った。

23日の夜半は雨だったが、恒例のキャンプファイヤー終了まではなんとか天気が持ち、翌日には雨も止んで登山日和となり、楽しく登山、ほぼ予定通りの時間で全員無事下山した。

今回も、根の平峠での豚汁の炊き出し、コースの事前整備等、青年部、学生連盟の若い力に助けられた。課題として、何よりも安全重視のボランティア登山において、いざという時の若い力はどうしても必要であり、今後も青年部、学生連盟の皆さんとは連帯を強くして活動していきたい。

先回の支部報にも書いたが、今回も「たくさんの笑顔とありがとう」に満ちた2日間だった。

「第 15 回東海岳人写真展」開催報告

写真展実行委員会委員長　**井上寛之**

第15回東海岳人写真展「山と自然のパフォーマンス」を、3月15日から20日までの6日間、名古屋市民ギャラリー栄8階の展示場で開催しました。

支部員、支部友会員72人による97点の作品（海外28点、国内69点）を展示出来ました。また、皇太子殿下から特別出品賜りました。

展示された作品は、国内、海外の山岳のみならず、日の出や月、虹などの自然現象、高山植物や滝や池、そして登山者の姿など、支部員の活発な活動を反映して幅広い題材を対象とした生き生きとした写真ばかりでした。

開催間中には、一般市民のかた2,501名が会場を訪れ、展示された作品を鑑賞して、自然の美しさや、登山の楽しさに触れました。また、出展者以外の支部員も多数の方が会場を訪れ作品を鑑賞すると同時に、支部員同士の交流の場ともなりました。

今回は展示室を前回の１部屋から２部屋に増やし、また展示室の中央にテーブルと椅子を配置して、休憩や歓談が出来るようにしたので、ゆっくり鑑賞するとことや支部員同士および来場者との交流もしやすくなりました。

今回は初出展の方も多く、多数の方の作品を展示することが出来ました。予算面でも出展料を一部出展者に返却するなど健全な運営が出来ましたが、今後はパネル作成費用の上昇が予想されるなど課題が出ています。

実行委員会では、今回の経験と反省を踏まえ、次回第16回にむけて、さらに向上を目指し、東海支部の中での大きなイベントとしてさらに発展させてゆきたいと考えていますので、今後も協力をよろしくお願いします。

皇太子殿下の作品に見入る

2016年（平成28年）3月17日（木曜日）　中日新聞　22

国内外の山々　感動を写真に

栄で作品展

山の風景や自然などをテーマにした「第十五回東海岳人写真展」（中日新聞社など主催）が十五日、中区栄四の市民ギャラリー栄で始まった。二十日まで。入場無料。

日本山岳会東海支部の七十二人が、国内外の登山で撮影した計九十七点を並べた。雪景色の富士山や八ケ岳連峰の赤岳山頂の夕焼け、エベレスト、ロッキー山脈などの景色や花の作品がある。

日本山岳会員の皇太子さまが、スイスアルプスで撮影された「アイガーとメンヒ」も特別展示している。

写真展実行委員長の井上寛之さん（七〇）は「頂上に登ったときの感動を、作品を通して感じてもらえれば」と話している。

山の風景などを撮影した作品が並ぶ会場＝中区栄4の市民ギャラリー栄で

写真展開催を伝える中日新聞記事

最終日に出展者全員で記念撮影

コグルミ谷での滑落事故に思う

安藤忠夫

支部員のN氏が、滑落事故を起こされたことを事故報告書で知った。30mほどの滑落で、頭部擦過傷、左手首と肋骨の骨折とのこと。2月7日、御池岳登山道のコグルミ谷を登る途中での事故のようだ。大事に至らずひと安堵である。この報告書に目を通しているうちに、少しばかり気になったことがあるので私なりの見解を述べさせていただくことにする。

「８．スリップ事故はなぜ起きたか」「９．課題…スリップや転倒を防ぐ効果的な対策はあるか」の項、その中での指摘、「如何に山慣れていても普通の登山者であるなら『ゴム長靴登山』はあり得ない」「自然の厳しさに対する謙虚さが無く、登山行為に対する冒瀆である」あたりについてである。

何をかくそう、私も長年にわたってゴム長靴登山に親しんでいて、奥美濃の山のかなりをこれで通してきた。で、このように大上段に振りかぶられると、立つ瀬がない。

まず自分の経験を１つ２つ。2007年4月29日、私は鹿島槍ヶ岳に登った。コースは爺ヶ岳南尾根から目指すもの。単独日帰りだった。爺ヶ岳を越え、トラバースに入ったところで、35、6歳の2人連れが「オッサン、先へは行っちゃいかん。場違いだ。迷惑だから引き返せ」と怒鳴りつけてきた。それもそのはず、こちらはピッケルこそ手にしていたが、ゴム長靴と軍手、小さなザック1つだけなのだから。ところがその数分後、件のうちの1人が棒小屋沢側に滑落して、70～80m落ちて止まった。当然ながら彼らは冬期用登山靴に12本爪アイゼンを付けていた。

さらにずっと若いころのこと。1972年2月13日、後立山連峰の不帰岳Ⅱ峰から、黒部側に滑落し、九死に一生を得たことがある。これも単独。厳冬期用登山靴だった。山頂に立ってホッとした拍子に、アイゼンのツァッケを岩角に引っかけて前のめりになったもの。その前年の11月末には、剣岳早月尾根の蟹ノ鋏地点のトラバースで、池ノ谷側に滑落しかかったが運よくツァッケが岩角にかかって滑落を免れることができた。

客観的に見て、ふさわしい装備は確かにある。だが、対象の山、時季、天気などで、又自分の経験に照らして選択することも、間違いとは一概に言えないと思う。登山装備は完全であるに越したことはない。が、それでありさえすれば万全かと言えば、そうでないこともあり得る。どんな装備を身に付けていようがなかろうが、事故は起こるべくして起きるのである。

今回のコグルミ谷の滑落事故について云えば、ゴム長靴だったからあの程度のケガですんだと言えなくもない。失礼ながらN氏は、ご高齢だと聞いている。だから起きてしまった事故である。極端にいえば、高齢者登山ゆえの滑落事故。体力低下、筋肉のこわばり、判断力の低下によるもの。この種の事故は、私も含めて避けて通れないだろう。日ごろから立派な登山靴を履いておられるあなたであってもである。

なにしろ、蒲団の端を踏んで骨折したり、階段を踏み外したり、公園を散歩していて転倒するのは日常茶飯事のこと。統計によれば、山での事故は6～7割が高齢者によるものらしい。本気になって事故を減らしたいなら、ある年齢以上の人の登山を禁止する以外にはないのである。まさかそれは論外だろう。

かつて坂倉登喜子さんがリーダーだったエーデルワイスクラブでは、“登山は文化だ”との掛け声のもとに、装備ばかりの服装や身に付ける小物まで厳しく指導していたやに聞く。そんなのから見れば、ゴム長靴登山はもってのほかということになる。が、私は一夏でしかなかったが小屋番をしたことがあって、山小屋の従業員は、かつては地下足袋で、今でもゴム長靴で登山道を行き来する人も多い。

もとよりゴム長靴登山を薦めようなどと思っているわけではない。要は、本人がいかに行動しやすく、自分に合っているかどうかで判断することではないのであろうか。

東海岳人列伝(3)
～黒部の山河と人を愛した伊藤孝一～

編集委員会　西山秀夫

本格的な日本山岳映画の嚆矢

伊藤孝一(明治25(1892)年～昭和29(1954)年）の業績を知るにはまず山岳映画を鑑賞するのが一番である。

以下は立山博物館の作品紹介を転載。

「雪の立山、針ノ木越え」(1923年3月)「雪の薬師、槍越え」1923-24(大正12-13)年、伊藤孝一隊撮影。構成・編集：羽田栄治、ナレーション：児玉清。「伊藤孝一は、大正12年11月から翌13年の4月にかけて3度の雪山行を企て、上ノ岳冬期初登頂、薬師岳厳冬期初登頂を果たし、越中から奥黒部領域を踏破して黒部五郎・三俣蓮華・鷲羽の頂を踏み、槍ケ岳に到達する(積雪期初縦走)。この山行の映画記録は未編集のまま信州有明の赤沼家に残置されたが、昭和40年に名古屋の報道カメラマン上田竹三（筆者注：大阪毎日新聞社名古屋支局写真部長）によって見出される。フイルムには、雪の北アルプスを目指した男たちのパイオニアワーク、それを支えた山案内人たちの活躍、当時の服装や装備、やがて湖底に沈む僻村有峰の風景などが写し込まれ、日本近現代登山史に欠くべからざる資料となる。2000(平成12)年、資料調査に基づいて富山県[立山博物館]が作品化」

伊藤孝一の出自

『雪稜秘話ー伊藤孝一の生涯』(以後秘話と略)には、先祖は尾張藩に仕えた御用商人で、京屋吉兵衛7代目と紹介。伊藤姓で御三家というので伊藤次郎左衛門の家系図や川伊藤も調べたが名前がない。架空の人物かと疑う。

そこで『山岳』の新入会員の一覧表を見ると大正5年7月に入会。ＮＯ481。氏名の前に「特別」とある。多額の寄付をしたらしい。住所は名古屋市西区玉屋町4-9。そうか、玉屋町といえば、家康が名古屋城を築城した際、「清州越し」の商人が大挙して転居した場所だ。今は中区錦三丁目で旧東海銀行本店の本町通り周辺。当時は中心地だった。

更に林董一『名古屋商人史』(昭和41年、中部経済新聞社)にあたると、玉屋町に京屋吉兵衛(伊藤吉兵衛)の名前がある。資格は御勝手御用達格で上位になる。明治4年、維新で生き残った商人の一覧表にもあり、鼈甲(べっこう)の商いを生業としていた。京屋吉兵衛は実在していた。

登山への目覚め～黒部源流への関心

伊藤孝一が登山に目覚めたきっかけは俳人の河東碧梧桐の紀行を大阪朝日で読んでからだという。碧梧桐は子規や虚子から有季定型の俳句を学ぶが、五七五の定型に飽き足らず、新傾向の自由律に傾倒。その宣伝のために全国行脚を試みる。大正2年に白馬岳、大正4年に日本アルプスを縦走。これで黒部源流の奥深い山岳地帯のあることを知ったのだ。退屈な日常生活を脱して、秘境への好奇心であり、登山記録を作る目的ではなかった。

名古屋における登山熱の高まり

『山岳』の大正3年の雑録を読むと、名古屋の会員の初めての集会が十数名でもたれた。同4年に八高山岳会を数名で結成。その会員が日本山岳会会員と重なる。大正5(1916)年6月10日には愛知県議事堂(当時は南武平町で今の矢場町付近)で在名の日本山岳会会員及び山岳愛好家有志晩餐会を開催。山岳講習会には2500名が集まった。日本銀行名古屋支店長の結城豊太郎が開会の辞を述べ、講師は高野鷹蔵と辻村伊助だった。9月には豊橋で志賀重昂を招いて講演会もあった。この高まりの中で、7月に弟の鎮之助とともに日本山岳会に入会。25歳だった。父は早世。不動産収入などで暮らす。秘話によれば愛知県下一の富豪だったとある。伊藤殖産合名の社長だが、事業は家訓としてやらず、趣味に浪費するしかなかった。今の年収60億円、納税額11億円。この豊富な資金にものを言わせて山岳映画の撮影を思いつく。フランスから映写機を輸入し、専任の撮影技師は名古屋の勝野銈四郎。山案内人の赤沼千尋、対山館の百瀬慎太郎らと深い交遊があった。

厳冬期の北アルプスへ

伊藤孝一の登山は夏山から冬山へとヒートアップしていった。大正12年1月から入るが2月に大沢小屋で吹雪のため停滞。大町側から

越中側への横断は撤退する。越中側に回り、立山登山、黒部川源流部を横断し針ノ木越えを果たす。半年後、有峰に入り、真川の源流に拠点となる豪華な山小屋を建設。上ノ岳（北ノ俣岳）、黒部五郎岳にも建設し、雪の薬師岳、鷲羽岳、槍ヶ岳、上高地への縦走の拠点とし、天気のいい日だけ行動した。

『山岳』17年第3号には「雪の上ノ岳へ」と題した榎谷徹蔵の大正12年12月25日から同年13年1月4日までの紀行文がある。藤木九三ら朝日新聞の登山隊は大多和峠を越えて、有峰へ。そして真川へと小畑尾峠越えする難儀な旅だった。真川には伊藤小屋があり、往時の小屋の贅沢三昧も活写されている。映画技師の勝野も同行している。

黒部五郎の小屋は冠松次郎が利用した。『黒部渓谷』（平凡社ライブラリー）の双六谷から黒部川への中で、「この小屋は二間半に四間位の大きさでずいぶん太い材料と行き届いた設備で頑丈にできている。炉が二つに切ってあり、風呂もすえ、暖炉までも設けてあった。入り口の掛け板に五郎平ノ小屋としるしてある。名古屋の伊藤孝一氏がこの山稜を冬季に旅行するのを目的に建てられたもので、昨年十一月頃にようやく出来上がったのだということである。氷冷の夜臥を覚悟していた私はこの賚（たまもの）に感謝の意を表さないではいられなかった」と激賞。大正13年8月5日のことだった。

山岳（記録）映画の評価の消長

大正12年夏「雪の立山・針ノ木越え」を公開。東京、大阪、名古屋、富山、松本、金沢の各地で上映会を開催すると超満員の観客があった。一般大衆にも目で山岳景観の素晴らしさを知らせた。この画期的な登山記録にもかかわらず、当時の日本山岳会からは無視された。遭難した槇有恒への配慮ともいう。このためか安川茂雄『近代日本登山史』（1969年）には記載がない。『目で見る日本登山史』（山と渓谷社、2005年）には掲載された。平成元（1989）年の槇の死去を待つしかなかったのだろう。今、再評価の兆しがある。

好事魔多し

秘話によれば、伊藤孝一は中川運河建設のため名古屋市へ土地を売却。翌年、売却金額に相当する課税に立腹し訴訟を起こす。伊藤は万策尽きて昭和6年に破産となった。それでも競売を逃れた資産で家族を養った。昭和26年に三鷹市に転居。昭和29年4月17日享年64歳で他界。墓は中央本線荻窪駅近くの西教寺の墓地で多摩霊園の裏。武蔵野の雑木林の一角に眠る。

写真：背景の双耳峰は鹿島槍ヶ岳。鷲羽岳山頂から薬師の方向を見ている。撮影技師は名古屋市の勝野銈四郎。

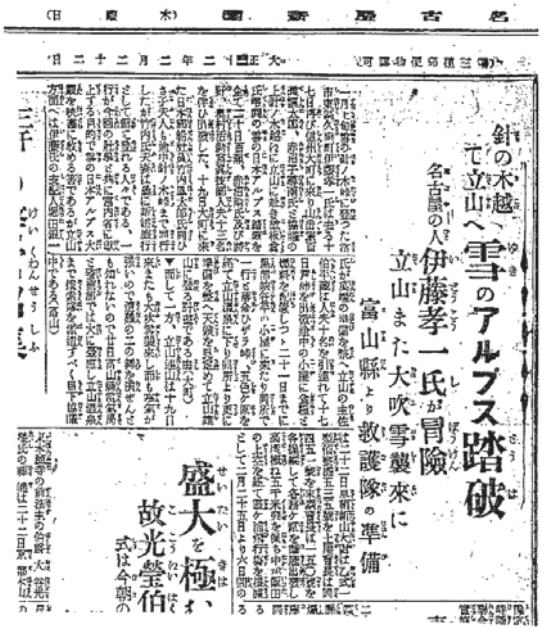
奥は槍ヶ岳。この角度、近さから鷲羽岳付近か。2人目の足の角度から山スキーとみられる。爪先をスキーに固定し、スキーをずらして登山。当時は1本杖だった。尻皮をぶら下げるのは案内人。これは雪でも暖かい。

4月の槍ヶ岳山頂。中央が伊藤孝一。
以上の写真はブログ「カモシカクラブ」様から転載した。

以上はブログ「ＳｏＮＡのブログ」様「山岳映画　特集上映　黎明期のドイツ映画から日本映画の名作まで」の中から転載した。

黒部川渡渉の場面

立山への登頂のショット



名古屋新聞（木曜日）

大正四年二月二十二日

針の木越し立山へ雪のアルプス踏破

名古屋の人伊藤孝一氏が冒険

立山また大吹雪襲来に

富山縣より救護隊の準備

盛大を極め故光瑩伯

式は今朝の

当時の新聞記事

東海俳壇

山蕩児仙酔

夏

ピトン打つ鋭きエコー夏の雲

グリセード急雪渓を飛ばし来ぬ

グリセード：急な雪面をピッケルを利用して滑り降りる技術。

ザイル延び股下の壁重畳

オーバーハングを乗っ越す。股の下には垂直の壁が幾丈も。

君想ふそっとくちづけチングルマ

山に逝きし友

独り言つ午月の夜深け杯二つ

彼奴もか榾火の静寂酒苦し

出棺に「いつかある日」の声凍てし

「いつかある日」：フランスの登山家、ロジェ・デュプラの詩。デュプラ、ナンダデビィに散る。遺稿となる。これに曲を付した歌で友を送る。

アンナプルナ街道

天を突くマチャプチャレの尾春霞

馬糞踏みトレッキングの長閑かな

玉姿楚君重ね見しラリグラス

ラリグラス：西洋しゃくなげ。ネパールの国花。一〇米も越す高木も。

西山秀夫

伊木山にて

伊木山へ遠足のごと岩登り

暖かや四肢伸び伸びと岩を攀づ

岩壁を攀づクライマーに落花かな

花吹雪クライマー確保する人に

垂直の壁攀づわれに春の風

草地にロープを束ねて置く

登攀後ロープ束ねし春の草

ひむがしの尾張三山霞けり

犬山の天守閣見へ山笑ふ

木曽川　志賀重昂は日本ラインの名付け親

春の川日本ラインは濁りがち

播隆上人の修業の場だった伊木山

播隆のゲレンデいずこ春深し

会員の広場

リレーエッセイ⑥

マカルー遠征余聞　その３

常任評議員　**尾上　昇**

マカルー登山隊は、カトマンズでの準備を終えＢＣに向けてのキャラバンをスタートさせる。今号は、キャラバン中に起きた様々な出来事を記したい。その前にキャラバンの概要を述べる。キャラバンであるが、キャラバンとは、すなわち登山を開始するためにはその基地となるベースキャンプ（ＢＣ）を建設しなければならない。そのＢＣに向かう旅のことである。マカルー隊の場合は、ＢＣまでのキャラバンは、途中のシプトン峠での思わぬ大雪にみまわれ難渋、カトマンズを発って32日目の3月22日にＢＣが建設された。

2月20日、カトマンズを発つ。国内便でネパールの南東に位置するビラトナガールを経由して、その日の内にキャラバンのスタート地点であるダランバザールに集結した。集結したというのは、隊荷のほとんどを船便でカルカッタ経由でダランバザールに運び込んでいて、それに付き添っていた2名の先発隊員とシェルパとも合流し隊荷と共に全てが揃ったという訳だからである。

2月22日キャラバンがダランバザールを発つ。隊員20名、シェルパ22名、キッチンボーイ15名、それにポーター440人の合計およそ500人、隊荷の総重量11.5トンの大キャラバン隊である。

キャラバン　―カズラ橋の谷を越える―

ＢＣへは、途中川を越したり谷を渡ったりする。アルン川を遡上する。その支流の一つの谷に差しかかった。谷幅は、およそ30ｍと狭くそこに一本の蔓で編んだ橋が架かっていた。橋の長さは、40ｍもあったであろうか。総勢500人の人間が渡るのである。しかも怪しげで危なっかしい。そこで隊員が先行して幾重にも蔓の橋をザイルで補強した。一度に大勢橋に乗るわけにはいかなので10ｍほどの間隔を空けて渡ることにした。橋の上には同時に3～4人位が乗ることになる。谷底は深くポーターも慎重になり一人渡るのに数分を要した。500人全員が渡り終えたのは、夕方であった。一つの谷越えに丸一日掛かってしまったのである。これからのキャラバンの先行きの労苦を暗示させた。

キャラバン　―屠る―

キャラバンの食事は、朝晩をキッチンボーイが作る。昼飯は、日本から持参したビスケットや固いパン類が中心である。朝晩の食材は、現地調達である。献立は、隊員の中の食料係が立てたものを、キッチンボーイに指示して料理させる。といっても食材に限りがあり食料係は大変である。

現地調達できるものは、野菜類やジャガイモそれと鶏卵や生きた鶏、豚、山羊などである。朝晩60名の食事を作るのである。現地調達の量も馬鹿にならない。野菜やジャガイモは、何十キロ、鶏卵も数十個、鶏も十羽以上、豚、山羊一頭づつなどの単位となる。鶏や豚や山羊をどのようにして屠るか興味があったので見物してみた。

先ず鶏である。キッチンボーイが一人、太い丸太にまたがる。籠に入っている鶏を取り出し、丸太の上に首をあてがいククリ（※）でバンと首を跳ねるのである。そのまま放る。首の無い鶏が首から血を噴き出しながら数メートルバタバタと走り回り、パタンと倒れる。それを繰り返す。終わると其処等じゅうに散らばった首と胴体を集める。辺り一面血だらけである。後は、羽根をむしるとおなじみのブロイラー状態になる。

ククリ

※ククリ：ネパールの高地民族が使用するナタ状の鋭利な刃物。このククリ一本ですべてのものを賄う。グルカ兵（イギリス陸軍所属）が、常

に腰に差していたことで知られている。

豚である。ネパールにいるのは、黒豚である。ヨークシャー種やバークシャー系の白豚とは異なり、毛が黒く、やや小振りである。どのように屠るかというと先ず手と足を紐で縛り横倒しにする。次に近くの竹藪から竹枝を30㎝位切ってきてそれをククリで先端を削って鋭く尖らせる。つまようじの先端よりも鋭いくらい尖らせていた。

その竹ひごを豚の前足の付け根の裏からブスリと腹の中に差し込むのである。豚は、キーキーキーと二度三度苦しげな悲鳴を上げるが、直ぐぐったりとなる。心臓を竹ひごでひと突きなのである。手早くこれもククリで腹から断ち割り肉をそれぞれの部位ごとの塊に仕分けする。日本ならさしずめトンカツ、焼肉、ポークソテー、豚汁、ハンバーグ等々色々な料理の具材になるのだが、最後までそのような類の料理にはお目にかかれなかった。

次に山羊である。山羊の処理の仕方が見ていて一番残酷であった。最初に山羊の角に紐を引っ掛けてその端を立木に結ぶ。一人が思い切り山羊の尻尾を引っ張る。そうすることによって自然と首が平行になって伸びる。そこを狙ってもう一人がククリでバッサリと首を刎ねるのである。ところが、日本刀で首切り浅右衛門が見事一刀のもとに首を切り落とすというようなわけにはいかない。二度、三度と首を狙ってククリを打ち下ろすのである。山羊は、苦しいのでヒーヒーと悲鳴を上げながら暴れる。

首が落ちると同時に尻尾を掴んでいた男が、素早く山羊が倒れないように胴体を抱える。ククリのもう一人の男が用意しておいた洗面器を素早く首の切り口にあてがう。どっと流れ出す血をその洗面器で受けるのである。豚同様部位毎に塊に分ける。

その日の夜である。夕食に山羊肉の炊き込み御飯が出てきた。屠殺の模様が瞼に浮かんだのと、獣臭さが鼻に付いて、とても食べる気になれなかった。仕方がないので肉だけを辺りの草むらに放り投げた。ちなみに洗面器で受けた山羊の血であるが、どうするのかと聞いたところ、そのまま火に掛けて煮て食べるのだそうである。

ＢＣへは、鶏と山羊を持ち込んだ。特に鶏は、夜明けと共に鳴き出すので閉口した。その鶏と山羊であるが、ＢＣから上のキャンプに登り降りしている間にいつの間にやら見当たらなくなっていた。

キャラバン ―カンチャン事件―

キャラバンに雇ったポーターは、440人に及んだ。ポーターは、老若男女が混じる。主に山域に住む農民である。何故農民かというと、農民にとってポーターは貴重な現金収入の道だからである。ネパールは、気候温暖の土地なので農作物は育ちやすい。暮らしは決して豊かではないが食うに困ることはない。とはいっても取れた作物を市場に出してお金に換えるほどの余裕はない。現金収入の場が乏しいのである。従ってポーター賃は、貴重な現金収入のアルバイトになる。中には、噂を聞いて一日掛けて山奥からポーターに応募してくる者もいる。

その中に一家で出稼ぎに来ていた家族がいた。若い父親とその女房、それに5～6才の男の子を連れた一家であった。勿論子供は、荷を担がない。この子供、イガグリ頭で目がクリクリしていて実に可愛いらしいのである。いつも親の前や後をチョコチョコついて歩いていた。その内隊員とも仲良くなって、昼飯を一緒に食べたりお菓子をやったりしてすっかりなつき隊員のアイドルである。

ネパール語で子供のことを「カンチャ」と言う。そこでその子に「カンチャン」というニックネームを付けた。隊員の皆んなが「カンチャン」「カンチャン」といって可愛がった。昼間は、いつも隊員と共に行動していて、まるで犬コロである。隊員の中に二人女性隊員がいたが、特にこの二人が「カンチャン」を可愛がった。

キャラバンがキャンプ地の都合で半日行動の日があった。二人の女性隊員は、「カンチャン」を近くの川へ連れ出し、頭の先から足の爪の先まで洗ってやったのである。石鹸でピカピカに磨かれた「カンチャン」がニコニコ顔で我々の前に姿を現した。彼らには風呂に入る習慣がないので見違えるくらい綺麗になった。

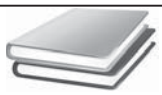
次の日である。いつもキャラバン出立の頃になると我々の前に姿を現す「カンチャン」が、今朝は来ないのである。おかしいなと訝っているとそこへ「カンチャン」の父親がシェルパ頭のサーダーと一緒に現れたのである。それも怒ったような険しい顔付きである。

サーダー曰く「昨夜子供が熱を出した。お前

達が川へ連れて行って水浴びなんかさせるからだ」と怒っているというのだ。発熱とは只ならぬ。原ドクターが早速往診に向かう。診察の結果は、朝は熱も大分下がり、軽い風邪の症状である。風邪薬と念の為に抗生物質を飲ませたから心配ないということであった。隊員全員ほっと胸を撫で下ろす。原因は、やはり冷たい川で水浴びさせたからであろうとの原ドクターの見立てであった。

その日以降「カンチャン」は、親の後に隠れるようにして付いて歩いていた。我々と目が合うと淋しそうな顔でじっと見つめるのである。その目は、我々の元に行きたいのだが親が絶対駄目と言っているようで、行きたくても行けない様子が手に取れ不憫でならなかった。

この一家、所定の稼ぎが得られたのであろう。その後数日経ってキャラバンを離れた。



東海支部の蔵書からの一冊⑧

図書委員会委員長　**石田文男**

『日本の名山11〈御嶽山〉』

御嶽山で気になるのは2014年9月27日に噴火をしたことである。では以前の噴火はどのようなものであったか、そのような内容が、166ページ「御嶽山噴火に思う」(伊藤和明氏)にある。1979年10月28日未明から10時間の噴火。様々な調査から1万年の眠りから覚め、そして休火山であることが分かった。大事に至らずに済んだが人間の物差しで自然の時間を図ることは出来ないと述べている。〈休火山であった御嶽山が35年後また同じ水蒸気爆発を起こしたわけである〉

172ページには「御岳噴火騒動雑録」庄野栄治氏の記録が載っている。1979年の御岳噴火時の人間模様である。2014年の悲惨な事故を思い出すと、二人の書かれた「噴火した御嶽山」はるか遠い昔の別な御嶽山に思えた。その他に、134ページに新井清氏の「木曽御岳の夏、赤川谷を攀じ伝上川を降る」と言う登攀記録がある。営林署との関わりやら学生達を交えての登攀である。トレーニングも装備も完全で次から次へと滝を越えていく様子が描かれている。その様子の中に鳥や植物の名前が登場する。時には宗教的な文句も。地獄谷を登り終え、伝上川を降る時に滑落があるが大事には至らなかった。大きな事故にならなかったからこのような記録が掲載されたのかなと思いつつ、準備万端でも何が起こるか予想がつかないのが登山かなと思った。

1998年11月30日発行　　頁252

図書委員　園田さえ子

『日本の名山18〈白山〉』

東海支部の登山教室に入り山登りを始めて10年余りが経った。徐々に高い山に登るようになると必然的に「白山」を目にするようになり、特に冬の雪の白さが群を抜いて見えるようになった。山の仲間からは「花の白山」と聞くに及び、いつかは登ってみたいと念を抱くようになっていたので、ルームでこの本を目にした瞬間、手が伸びていた。さっそく読み始めると26人の執筆者の胸踊る「白山」が満載されていた。特にその中の2人の「白山」を紹介したい。1人目は「百名山」で有名な深田久弥、彼にとっては「白山はふるさとの山」だと言っている。〈生家の二階からも小学校門からも、鮒釣りの川辺からも、泳ぎに行く海岸の砂丘からも、つまり私の故郷の街どこからでも見えた。私のふるさとの町から眺めるのが最上である〉と賛嘆している。

遠くから眺めても登っても優しい山で、頂上の天然庭園を見たくなった。ますます「花の白山」のイメージが強くなるばかりだ。

2人目は桑原武夫で「尾上郷川と中の川」だ。それはいまで言う沢登りで、時代は昭和4年8月の10日間の山旅になっている。乗合自動車や草鞋と言う見慣れない文字。一行は5人で人夫3人を頼んでいる。地図は陸測五万分の一の「白山」。どのような地図か想像もしがたいが、文の中に「尾上郷川地名図」が記載されている。初めての谷筋コースのために人夫を伴っていて今で言うガイドだったと思う。その中に宇治長次郎と言う名前があり、越中大山村のガイドで明治42年陸地測量部の柴崎芳太郎一行を剣岳頂上へと導いた人物だと分かった。その一行5人は好天気と長次郎らの優れ

た支持、例えば谷が狭く断崖の連続の中ロープをくくりつけて切り抜け、無事測量の山旅を終えた、と述べられている。

「尾上郷川と･･･」のコースの中にはたくさんの谷や地名が出てくる。で、さっそく地図を出して探してみると同じ名の谷や地名がそのまま載っていた。尾上橋も地図に有ったが御母衣湖の上にあり、近くには「荘川の桜」も有って庄川は荘川になっている。過ぎる年月を感じたものだった。他には「白山のブナの森」「高山植物のふるさと白山」など、まさに『白山』がいっぱいである。この本一冊で「白山」のすべてを知り尽くしたような気持ちにさせてくれる。ぜひ地形図片手に「この一冊」をじっくり読んでいただきたい。

1998年3月15日発行　　頁250

図書委員読図会　川瀬眞知子

『日本の名山7〈剣岳〉』

昔、富山に暮らしたことがあり、何時も眺めていた剣岳は、私にとって憧れの存在だった。剣岳の谷や尾根に、宇治長次郎、佐伯平蔵、佐伯源次郎などの芦峅の案内人の名が付いているのも地元の人の誇りだ。ところが、「太刀の鋭さと靭さを持っている(深田久弥)」剣岳は、容易には登らせてもらえず別山尾根と早月尾根も困難だが、それ以外のバリエーションルートは、「傑出したクライマーにのみ許される、日本では第一級の困難なルート(松本龍雄)」である。若きクライマー達が未踏のルートを求めて様々な角度からの登攀を試みてきた。本書には小笠原勇八、芳野満彦、古川純一、松本龍雄等、往年のクライマー達のいわば青春の登山の記述が編集されている。

その中のある女性の一文に私は釘付けになった。表題は「剣に遊ぶ」この女性は夫とガイドの3人で一日目、白萩川を溯って雪渓を登り、小窓へ出て池ノ平小屋に泊まる。しかし次の日、ガイドが腹痛でリタイア。夫は滑落しそうになり足首を痛めてしまう。そこで彼女は二人分の荷物を背負い二俣の岩小屋へ雪渓を下るのだ。三日目、夫を残して別のガイドを伴いさっさと剣岳に登頂してしまう。さらに、五日目には捻挫の治った夫とともに八ッ峰の岩峰を征する。彼女の名前は黒田初子。昭和5年の話である。百年近く前にこんなタフな女性が居たなんて。何だか清清しくも喝を入れられた気がした。

1998年5月発行

『日本の名山』（20巻＋別巻4)

串田孫一、今井通子、今福龍太編

46判変形　　発行：博品社

図書委員読図会　飯島実千代

今回は以前にも紹介したことのある『日本の名山』シリーズ(巻20、別巻4)を一山ごと取上げてみることにした。ここに紹介の三山を読んで頂ければ、それぞれ原稿筆者の思いがよく表れていることを分かって貰えると思う。読者に「そんな中から本への興味・自分の山の中へ」が伝われば、この蔵書紹介シリーズに意義があり、その目的の一つが満たされていくと思っている。

石田文男

会員の広場

同好会紹介コーナー

東海支部員が有意義なクラブライフを享受するための組織として活動する同好会の活動を紹介するコーナーです。

同好会設立のお知らせ

今まで図書委員会の下で続けてきた「読図会」でしたが、この4月から同好会の一つとして立ち上げる事になりました。設立趣旨には「登山教室などを経て・・・」とありますが、地図に関心のある方ならどなたでも一緒に楽しくやっていきたいと思っています。

「地図読み」「概念図作成」「山書をかこんで」を毎月実施します。

名称：読図会

代表：園田さえ子　　**副代表**：浅野舜三

設立趣旨：登山教室などを経てさらに登山を安全にそして、主体的に楽しみたい人の集まり。座学で国土地理院の地図を基にして山容や地図の読み方を習得する。その後山行計画を立案し、実践し、その結果の反省会を開き、安全登山を考察する。

設立時会員数：11人

実施日　山行：第4日曜日

座学：第3月曜日(ルーム)19:00～21:00

古道塩の道同好会　　山中光子

毎月第3土曜日に催行する探索例会は、古道を調べながら歩くのは勿論、その土地の文化、くらし、風景、地元の方との交流等、貪欲にその土地を楽しんでいる。

阿智村を抜け、飯田市に足を踏み入れる。この辺りはまだ農村の風景で、秋の干し柿の作業に追われているのを見ながら国道を離れ、二つ山の山裾を歩き、中央自動車道をくぐり、広大な干し柿のすだれを見ながら静かな昔の道を楽しむ。昭和22年4月の「飯田の大火」で城下町特有の古い面影の3分の2を焼き尽くしてしまった飯田市は、区画整理がされ、近代的な町になってしまっている。焼け残った三連蔵と言う昔の三軒連なった蔵を利用し、カフェ等として使用している。唯一焼け残った蓑瀬町を歩くが、昔の面影は全く無い。とは言っても石碑や多くの樹齢何百年の桜に歴史を感じる。飯田市にも1ヶ所のみではあるが主要道路から離れたところに古道らしさを楽しむ道があった。

後方は二つ山　ゴミ集積場の馬頭観音像

広い飯田市を抜け、高森町に入る。以前、下見時に探した道が大雪で探せず、再度訪問の時やっと見つけた道を皆で歩く。その道も最後は民家の前を通らせてもらう道だった。高森町にも色々な名所があり、古道探索後はまず元善光寺にと足を延ばす。復路はいつものように、出発点に歩いて戻るには遠すぎ、飯田線を利用する。今後の古道歩きは、地形的に飯田線を利用する事が多くなる。

高森町第2回目では、古道探索後、瑠璃寺と言う由緒のあるお寺に参拝と言うよりも、源頼朝の寄進した桜見物。枝垂れ桜も時季は遅かったが、開創900年を迎えた瑠璃寺は山の中腹にあるため、展望も素晴らしかった。古道には水戸の浪士が通った道と大きな石碑が立ち、地元では水戸市と交流もある。町の中には、歴史民俗資料館があり、高森町の歴史、民族部門と区分され、県の宝の冨本銭が展示してある。これは古墳時代日本最古の貨幣との事。

「水戸浪士この道を通る」の石碑

古道を歩き、塩を運んだ道を探しながら、人々のくらしや環境等、色々の物が見えて来る。

スケッチクラブ　　村中　征也

雲一つない青空が穂高の峰々の上に広がり…画用紙にコバルトブルーの絵の具を塗る喜びに浸りました。空の色は薄く塗らないと絵の構成に困るのですが、どうしても濃く描きたくなる美しさでした。発足4年目で、春の上高地のスケッチ旅行が実現しました。宿泊は山研、1泊2日の予定が、折角だからと1日伸ばした方もみえました。

河童橋前で

登山に夢中の頃は、河童橋から穂高を仰ぎ、後はひたすら横尾を目指して急いだものでした。それに比べるとスケッチは良いですね。穂高や明神の山肌をじっくり眺め、ニリンソウやエンレイソウの群落に見とれ、嘉門次小屋の岩魚の串焼きを楽しみ…正にナチュラリスト！

♪雪よ岩よわれらが宿り
　おれたちゃ町には住めないからに♪
♪暮れ行くは白馬か穂高はあかねよ
　樺の木のほの白き影も薄れ行く♪

山研は我々だけの貸切状態、夕食後に山談義を楽しみ、山の絵の魅力と苦労話。最後はやっぱり、持参の歌集で山の歌を合唱、上高地の夜を満喫しました。

今年から山研の管理人になられた元川里美さんは素敵な方で、親切にお世話頂きました。またオープン前の確保で、松本陽子さんにお世話を掛けました。有難うございました。

≪事務局≫村中征也・加藤和子・武内喜代子

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画
（平成28年7月～平成28年11月分）

＜夏山＞7 月 16 日（土）～17 日（日）
☆☆　北アの奥丸山（2,439m）
ﾘｰﾀﾞｰ:今津英一朗　締切：6 月 26 日

＜夏山＞7 月 26 日（火）～29 日（金）
☆☆　北アの燕岳（2,763m）他
ﾘｰﾀﾞｰ:榊　將美　締切：7 月 10 日

＜夏山＞8 月 5 日（金）～7 日（日）
☆☆　北アの立山三山縦走　雄山（3,003m）他
ﾘｰﾀﾞｰ:村瀬恭平　締切：7 月 16 日

＜夏山＞8 月 26 日（金）～28 日（日）
☆☆　北アの後立山縦走
岩小屋沢岳（2,630m）他
ﾘｰﾀﾞｰ:尾上　昇　締切：8 月 6 日

＜夏山＞9 月 2 日（金）～3 日（土）
☆☆　北アの焼岳（2,455m）
ﾘｰﾀﾞｰ:金谷正起　締切：8 月 13 日

＜夏山＞9 月 9 日（金）～10 日（土）
☆☆　八ヶ岳の硫黄岳（2,760m）他
ﾘｰﾀﾞｰ:磯部　隆　締切：8 月 20 日

9 月 19 日（日）
☆☆　鈴鹿の仙ケ岳（961m）
ﾘｰﾀﾞｰ：田中　進　締切：8 月 30 日

9 月 28 日（水）
☆☆　中央アの三ノ沢岳（2,846m）
ﾘｰﾀﾞｰ：伊藤康信　締切：9 月 8 日

---

10 月 8 日（土）～10 日（月）
☆　北アの上高地～涸沢往復
ﾘｰﾀﾞｰ：村瀬恭平　締切：9 月 10 日

10 月 12 日（水）
☆☆　飛騨高地の籾糠山（1,744m）
ﾘｰﾀﾞｰ:田中　進　締切：5 月 29 日

10 月 30 日（日）
☆☆　両白山地の大日岳（1,708m）
ﾘｰﾀﾞｰ：榊　將美　締切：10 月 16 日

---

11 月 2 日（水）
☆☆　鈴鹿の御在所岳（1,212m）
ﾘｰﾀﾞｰ：伊藤康信　締切：10 月 10 日

11 月 12 日（土）
☆☆　湖東の日本コバ（934m）
ﾘｰﾀﾞｰ：金谷正起　締切：10 月 23 日

11月20日（日）
☆　養老の養老山（859m）
ﾘｰﾀﾞｰ：村瀬恭平　締切：10月31日

―― おしらせ ――

支部友会員数
平成28年5月現在 / 44名

次回支部友ミーティング
開催内容のお知らせ

① 第18回『2016夏山へのお誘い』
日時：6月14日（火）19:00～　支部ﾙｰﾑ
講師：支部友夏山ﾘｰﾀﾞｰ

② 第19回『遭難事故に学ぶ・安全登山』
日時：8月9日（火）19:00～　支部ﾙｰﾑ
講師：柴田清康氏

山行対象者　支部友会員及び支部会員

申込み方法
- 支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。
- 締切日　原則山行日 20 日前まで。（締切日を過ぎての参加空き情報はﾘｰﾀﾞｰに直接問い合わせ下さい）
- 支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- 山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

ﾘｰﾀﾞｰ連絡先
村瀬恭平　携帯：090-4186-9876
ﾒｰﾙ：hoshizakari@ezweb.ne.jp
伊藤康信　携帯：090-2577-8137
ﾒｰﾙ：kobitokaba@mediacat.ne.jp
磯部　隆　携帯：090-9180-7245
ﾒｰﾙ：takass@yk.commufa.jp
今津英一朗　携帯 090-2616-7549
ﾒｰﾙ：imazu.eiitirou@maroon.plala.or.jp
金谷正起　携帯：090-9931-3600
ﾒｰﾙ：kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp
田中　進　携帯：090-9191-8666
ﾒｰﾙ：t-susumu@peace.ocn.ne.jp
榊　將美　携帯：090-7237-4410
ﾒｰﾙ：m.sakaki@minds-consulting.jp
尾上　昇　FAX：052-832-3878
ﾒｰﾙ：onoe@onoe.co.jp

報告　第17回支部友ミーティングにて「中世古直子トークショー」が開催された。

4月13日（水）　19：00～20：30

講師：中世古直子氏・柴田清康氏

参加者37名（支部友8名）

1974年5月4日中世古直子らの日本女性隊が世界8位8163mのマナスル登頂に成功、初の女性による8000m峰登頂を果たしました。

中世古さんは 40 年前の登頂記録を柴田副支部長とのトークショーにより話され、またスライド上映で苦労して頂上に立った時の様子を解りやすく解説されました。

1時間半のトークショーに参加者の皆様大いに満足されました。

個人山行もＪＡＣ東海登山届けを！

専用携帯電話（担当　野呂邦彦）

080－2632－3776

委員会報告

【亀の会】

亀の会の構成

本年 7 月で亀の会は発足 8 年になります。会員数 57 名（男性 27 人、女性 30 人）、この一年、入・退会者はなく、そのまま歳を重ね、元気に山歩きを楽しんでいます。

年齢構成（2016 年４月 1 日現在）

・85 歳～80 歳（昭和 5 年～11 年 3 月生）　8 人

・79 歳～70 歳（昭和 11 年 4 月～21 年 3 月生）　37 人

・69 歳未満（昭和 20 年 4 月生以降）　12 人

亀の会発足当初は「傘寿（数え歳 80 歳）まで元気で歩く」が目標でした。今や傘寿を過ぎた方は、亀の会の会員で 16 人になります。今では「米寿（数え歳 88 歳）まで」に目標年齢が上がりました。皆さん意気軒昂、元気に山歩きを続けております。

山での事故予防に注力

亀の会も 8 年になりますが、無事故で山行を重ねてきています。高齢者集団なので、「山の事故の可能性は高い」という自覚を持ちながら、ことのほか安全に留意して、無理のない山歩きをしているお蔭と思っています。

・『山での事故発生時の対応の手引（亀の会編）』の見直しをしました。

2011 年 2 月に『山での事故発生時の対応の手引（亀の会編）』を作成していますが、昨年 4 月の荒島岳での身近な人の遭難事故を教訓として、一年ほどかけて見直しをし、今年 4 月に改定しました。

・今年の事故予防の取り組みは、鈴鹿を中心に遭難現場・道迷い現場を見る山行を企画しています。また、技術向上委員会の各種計画に積極的に参加していく予定です。

青山高原にて

５月に傘寿記念山行で、青山高原東海自然歩道へ行ってきました

今年傘寿（数え歳 80 歳）を迎えられた方のお祝い山行として、「80」にこだわり、5 月 19 日に標高 800mの丘をゴールに青山高原の東海自然歩道を、総勢 30 名で歩きました。今年傘寿を迎えられた方は 5 人。そのうち 4 人が参加されました。

青山高原は、若狭湾から琵琶湖を経て、伊勢湾に抜ける風の通り道で風の強い高原として有名で、室生赤目青山国定公園にありながら、風力発電の風車が 60 基ほど林立するところです。行きのバスの中で、電力に詳しい亀の会の最長老の大坪重遠さんから「風力発電あれこれ」をテーマに講義を受けました。「風力発電は、枯渇することのないクリーンエネルギーで、新エネルギーの中では比較的発電コストが低いメリットがあるが、風向き・風速・季節・気候に左右され、発電出力は不安定、広大な土地面積が必要、騒音等もあり人家から遠く離れていること等の立地条件の問題もある」など、風力発電についての認識を新たにしました。青山高原の山歩きにもうひと味加わった山行になり

ました。

加藤守彦

【写真展実行委員会】

「劔の大王杉」に会ってきました！
～岳人写真展実行委員会主催の
馬場島撮影山行～

去る5月15、16日、富山県上市町の劔岳山麓・馬場島での撮影山行を実施した。参加者は支部員7名とその友人、家族2名で、女子5名、男子4名の計9名。平均年齢は70ン歳。

劔の大王杉

1日目の15日は、1名のマイカー利用を除き他の8名は、名鉄バスセンターから名鉄バスで富山駅前まで、富山から上市までは富山地鉄で、さらにそこからジャンボタクシーで馬場島へ。

昼食後、第一の撮影目的である「劔の大王杉」を目指して出発。白萩川沿いの緩傾斜の林道を登り、分岐点からは何本も鎮座する立山杉の巨木に歓声をあげながらの軽登山。みな高齢者故、1時間以上かけてやっと大王杉とご対面。幹周り約 12m,樹高約 20mの神々しいばかりの姿に圧倒され感動のあまり声も出ない。幹の中心部分に空洞があり、大人数人が入れそうである。

「劔の大王杉」は、2003年5月3日、魚津岳友会の佐伯郁夫・克美夫妻が早月尾根の松尾奥の平から白萩川へ残雪の斜面を下って歩き回っていた時に標高 950mの地点で偶然出合った、とのことである。

重い大判カメラと三脚を担ぎ上げた最高齢のMさんは、疲れも見せずに早速暗幕を被ってピント合わせに集中。他のメンバーも思い思いのアングルから心ゆくまで撮影。空洞の中に入って記念？写真を撮る者も。1時間ほどの大王杉撮影後、堪能して馬場島荘へ。

この馬場島荘のご主人は、劔澤小屋の佐伯友邦さんの弟・徹さん。気さくで親切、また料理上手で評判である。山荘とは思われない美しく清潔な建物と美味しかった夕食に満足。二次会(懇親会)は大部屋で各自持ち寄った飲み物、嗜好品で消灯時間の21時まで自己紹介、近況報告で話に花が咲いた。

中山山頂にて

2日目の16日は、第二の撮影目的の劔岳西面を目の当たりに眺められる中山(1,255m)の登山。心配された天候も早朝から晴天。私（杉浦）の友人で地元上市峰窓会のベテランクライマーにしてプロ並みの腕前の山岳写真家でもあるAさんのご厚意による案内で7時25分出発。登り口からの急登で、途中1名は山荘近辺での撮影のため下山。登るごとに現れる幹周り10mを超す巨大杉や「五本杉」などの巨木を楽しみながら、標準時間の約2時間で頂上へ。頂上からは、正面の劔岳、早月尾根の他、猫又山、赤谷山、白萩山、赤ハゲ、白ハゲ、大窓、池の平山、マッチ箱、小窓の王、三の窓などの劔岳北方稜線や大日岳までの大パノラマが眺められ、まさに「劔岳の特設展望台」である。ここでAさんが、思いもしないコーヒーを自宅の名水で沸かしてみなに振舞ってくれた。なんと美味しかったことか！

1時間余りの撮影の後、登りとは反対側の東小糸谷の下山道を新緑やニリンソウ、サンカヨウなどの花を楽しみながら12時15分に無事馬場島荘へ帰着。

復路は往路と同じ交通機関で20時に名古屋着。「お天気も、花や木も山も、宿の料理にも恵まれたファーストクラスの山行」との参加者の感想に世話人として嬉しく思い、また安堵した。また機会があれば、全山が紅葉する時期にも訪れてみていただきたい。

杉浦吉治

会　務　報　告

【2016 年 3 月常務委員会】

日時：3 月 23 日（水）19 時 00 分～20 時 30 分

１．支部長挨拶（小川）

「平成 28 年度組織図」並びに「支部長及び副支部長の担当委員会」案について説明のあと意見交換。高橋支部長を中心にした新体制を纏め、4 月常務委員会までに提示。「評議員」「監事」についても検討をする。

総務(毛利)-年度中途入会者の会費は月割で請求することになった件については常務委員会で承認を受け会則を修正した旨総会で報告する予定である旨報告。

２．委員会報告

①支部友委員会(酒井)：配布資料に基づき、3 月の委員会活動報告。来年度から支部友ミーティングは第 2 火曜日に変更する旨報告。

②山行委員会(鈴木委員長にかわり石井)：配布資料に基づき活動報告。H27 年度の山行実施率は 71%、リーダー会議を 3/18 開催した旨報告。

③会計(市川)：4 月会報送付の際に会費請求を同封予定。年度末に 3 年間会費未納者は除籍とする旨報告。

④岳連(市川)：海外登山研究会・愛知山岳マラソン・山の日記念の講演会などにつき報告。

⑤亀の会(加藤)：配布資料に基づき H27 年度の事業報告と来年度の計画を報告。

⑥猿投の森づくりの会(和田)：配布資料に基づき活動報告。4/2 観桜会、4/5 わいがや講座の予定。やまじの森の利活用は猿投の森づくりの会名義にて 3 年間の継続活動の承認を得た。これに伴い H28 年度の「森の音楽祭」は、猿投の森づくりの会主催で行うことが出来ることになった旨報告。

⑦東海ユース(山田)：配布資料に基づき活動報告。来年度の活動計画については 4/3 開催予定の委員会で審議の予定。方向としては個人山行を増やしていく予定である旨報告。

⑧支部報編纂委員会(星)：No.145 号は、予定通り 4 月 1 日発送予定である旨報告。

⑨登山教室委員会(天野)：現在は 2 教室で運営しているが、来年度は 3 教室になるよう受講生を募集中である旨報告と同時に、副委員長は杉村氏にお願いすることが出来た旨報告。

⑩自然保護委員会：南川委員長欠席のため、活動内容は報告書を参照して欲しい旨報告。

⑪図書委員会(石田)：来年度は本の配置をジャンル別に変更する予定である旨報告。

⑫ボランティア委員会(前田)：配布資料に基づき来年度の活動予定を報告。来年度も「六つ星山の会」を誘って視覚障がい者を対象に雪山山行を計画したい旨報告。

⑬技術向上委員会(片岡)：2 月の委員会に本部から関係者も招き今後の活動を協議。6 月に沢登りに関する講演会を行う予定、4 月発送の支部報に当講演会の案内を同封する予定である旨報告。

⑭海外登山委員会(高橋)：アコンカグア登山隊から登頂報告(4 人の内 2 人登頂成功)、詳細は後日報告書の形で報告予定。

ワディントン山群登山隊－菊池支部員から 4 月 26 日に出発し、5 月 2 日現地入り後約 1 ヶ月をかけて登頂を目指す予定である旨報告。同時に本部から海外登山遠征助成金が入金になった旨報告。

⑮写真展実行委員会(井上)：第 15 回東海岳人写真展の報告―出展数・出展者数は過去最高、入場者数も前回より増え 2,501 名であった旨報告。スペースを広く取り中央に机を置いたことで交流の場となった。

⑯デジタルメディア委員会(井上)：配布資料有り。メールでの登山届―確実に返信できる仕組みを構築中。メールによる情報発信について―幾つかの段取りが出来た時点で暫定運用を開始する予定である旨報告。

⑰総務委員会(毛利)：今後の予定につき報告－4 月下旬「評議員会」、5/21「支部総会」、10/22「森の音楽祭」を予定。各委員会の H27 年度の事業報告、H28 年度の事業計画、未提出の委員会は 4/27 までにメールで知らせてほしい旨要請。

３．その他

①会計(市川)：遭難対策に使った費用は回収のめどが立った。各委員会の来年度予算について協議。

②高橋新支部長から挨拶。

出席者：小川、山田、高橋、佐野、尾上、和田、片岡、石井、星、前田、井上、佐野、加藤、石田、市川、天野、中世古、毛利、酒井、榊

【2016 年 4 月常務委員会】

日時：4 月 27 日（水）19 時 00 分～21 時 00 分

１．支部長挨拶（小川）

5月の連休を迎え、山へ出かける事と思うが事故の無いように留意してほしい。5/21 の総会後、新体制がスタートするが本日の常務委員会で十分な審議をお願いしたい、と挨拶があった。

２．委員会報告

①会計(市川)：配布された資料に基づき H27 決算報告。H28 年度予算については財政的に非常に厳しい状況であるとの事。意見交換後、「支部活性化」「森の音楽祭」など必要な部門は事業費の復活・増額等調整の上修正案を総会で提案することとなった。

②支部友委員会(榊)：配布された資料に基づき 4 月の委員会活動報告。支部友会だよりを外部発注(ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ)にし、質が向上した。尾上委員長より「準会員制度の導入」について話があり認識を共通化した旨報告。

③山行委員会(鈴木)：配布された資料に基づき報告。委員会メンバーについて石田氏辞退、村井氏、加入。 H28 年度の方針として「リーダー育成と確保」「女性リーダー確保」を目指していく旨報告。

④亀の会(加藤)：配布された資料に基づき H27 年度の報告並びに H28 年度事業計画を承認したとの事。「山での事故発生時の手引き」について：メールで送付後、意見があれば補正する旨報告があった。

⑤猿投の森づくりの会(和田)：配布された資料に基づき報告。「観桜会・ミニ音楽会」がボランティア委員会との共催で無事終了。JAC 所有の山桜ﾌｨｰﾙﾄﾞで炭焼に成功した。H28 年度は会長が高橋氏に代表が小川氏、作業部会長が加藤氏になる予定である旨報告。

⑥東海ユース(山田)：配布された資料に基づき報告。現在 25 名、新年度役員が決定、リーダー育成を進める、計画書提出は担当副支部長に変更、など報告があった。

⑦支部報編纂委員会(星)：配布された資料に基づき報告。支部報 No.146 の原稿締切は 5/20。No.145 の表紙の間違いをｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝで訂正記事とする。新支部長の挨拶文を載せる予定とのこと。

⑧青年部(藤嵜)：配布された資料に基づき H27 年度の事業報告と H28 年度計画を報告。計画書のﾌｫｰﾏｯﾄを作成し統一したとのこと。

⑨登山教室委員会(天野)：配布された資料に基づき報告。各教室動向について受講生はほとんどが継続者である。指導員研修は、年 6 回位、山行委員会と合同で行う予定である旨報告。

⑩自然保護委員会(南川)：配布された資料に基づき、自然観察会行、自然保護全国大会、森の勉強会(関西支部主管)、猿投山調査など報告。

⑪ボランティア委員会(前田)：配布された資料に報告。従来の一般公募のブラインド登山のほかに支部の視覚障がい者を対象にした支援登山を月例または隔月で行う予定。視覚障がい者会員向けに支部刊行物の電子データーをメールで送る事を検討してほしい(支部報編纂委員会・支部刊行物編集委員会　検討中)とのこと。

⑫技術向上委員会(片岡)：立ち上げ行事として講演会を 6/18 に開催予定、秋にも冬山に向けてのテーマで講演を行う予定。一般会員対象のレベルアップ講習は？⇒考慮しているが具体的な案については今後検討。

⑬海外登山(高橋)：菊地氏が昨日カナダに向けて出発した。実際の活動は 5 月に入ってから、とのこと。

⑭写真展実行委員会(井上)：4/7 反省会。次回写真展開催は 2018 年に。撮影山行を 4/24～25、5/15～16 に予定している旨報告。

⑮デジタルメディア委員会(井上)：4/19 に委員会を開き、H28 年度の方針は≪情報発信≫とする。

⑯遭難対策委員会(野呂)：山岳保険は内容を十分に検討して加入してほしい。新入会員にもアドバイスをして欲しい。来年度の委員長は山田氏にお願いする。

⑰夏山フェスタ(毛利)：6/10～6/11 に開催。今回も青年部、登山教室委員会、支部友委員会には協力をお願いしたい。「山の日」の啓蒙活動、動画を使っての PR 活動をしてはどうかとの事。

⑱森の音楽祭委員会(毛利)：5 月に正式に委員会を開き、スタートする予定。

３．その他

(毛利)＊「山岳」所載「東海支部の活動報告」参考に。＊総会までに H28 年度の正副委員長、担当者名を明確にする。＊同好会「読図会」がスタートする。

出席者：小川、山田、高橋、佐野、尾上、和田、片岡、鈴木、星、前田、井上、佐野、加藤、柴田、市川、天野、藤嵜、南川、野呂、毛利、榊、

【2016 年 5 月常務委員会】

日時：5 月 25 日（水）19 時 00 分～20 時 30 分

１．支部長挨拶（高橋）

今年度の方針として①安全第一②チーム東海として纏まりをもって③NO.1 をめざすの 3 点を掲げて進みたい。また厳しい財政状況であるが収益事業にも取り組んでいきたいと思っているので、皆さんの協力をお願いしたいとの挨拶があった。

２．審議事項（佐野）

8 月 11 日に御在所で三重県岳連と共に「山の日イベント」を企画している(例：一斉登山・アルプホルン演奏など)、幾つかの委員会(山行委員会、登山教室、東海ユース、青年部、支部友会など)の協力をえて出来るだけ負担の少ない形で進めていきたいとの提案があり、了承された。7 月の常務委員会の開始前に関係者で内容を詰めることとする。

３．委員会報告

①支部友委員会(榊)：配布された資料に基づき委員会報告。4,5 月の山行報告、夏山フェスタで入会希望者へは 6/25 に入会説明会、7/9 にお試し山行の予定。遭難ケガ等緊急の場合は支部長並びに遭難対策委員長へも連絡する旨報告。

②亀の会(加藤)：5/19 に青山高原 35 名参加。現在傘寿の人が 16 名。6/23 月例に「遭難現場から学ぶ（宇賀渓～石榑峠)」を三重県岳連の居村さんにお願いする予定との事。

③猿投の森づくりの会(小川)：配布された資料に基づき報告。5/21 に総会、新体制がスタートした旨報告。

④東海ユース(山田)：配布された資料の基づき報告。個人山行を進めてきたが増えてきた、「計画書」はチェックしている。6/5 の運営委員会にて夏山の検討を行う予定。リーダーの育成を目標にしている旨報告あり。

⑤支部報編纂委員会(星氏欠席、代理で毛利総務委員長)：原稿未提出者は早く提出してほしいとのこと。

⑥青年部(藤嵜)：配布された資料を基づき山行報告並びに計画を報告。

(高橋)青年部の中にボランティア活動を目指すG(特に学生)がいるので、今後もボランティア委員会と一緒に活動していく旨話があった。

⑦登山教室委員会(天野氏欠席、代理で山田副支部長)：配布された資料に基づき報告。教室は中日と朝日のみ。指導員研修年間計画について説明があり、座学(ﾌｧｰｽﾄｴｲﾄﾞ等)と実践(沢登り・岩稜登攀とﾛｰﾌﾟﾜｰｸ等)のｽｹｼﾞｭｰﾙとｶﾘｷｭﾗﾑを報告。

⑧技術向上委員会(片岡)：安全は全てに優先すると思ってる。指導員研修と関連があるがﾌｧｰｽﾄｴｲﾄﾞ等、山岳医療の部門で三浦裕氏を講師に招き開催。たくさんの会員の方々の参加と学習を期待してる旨報告。

⑨図書委員会(石田氏欠席、代理で毛利総務委員長)：配布された資料を参考に。

⑩ボランティア委員会(前田)：配布された資料に基づき 5/29 のブラインド登山の報告。「月例ブラインド登山」を実施することとした旨報告。対象は支部在籍の視覚障がい者、リーダーは尾上委員との由。

⑪自然保護委員会(南川)：配布された資料に基づき報告。7/16～の全国集会に 7 名参加予定、9/10～自然観察 1 泊山行がある、問い合わせ窓口は南川委員長。

⑫山行委員会(鈴木氏欠席、代理で毛利総務委員長)：配布された資料を参考に。

(山田)4/29 の月例山行「銚子ヶ口」の報告の中で「予定ルートと異なる・・」は問題があるのでは？

⑬写真展実行委員会(井上)：5/9 写真展後援者へ報告をすませた。5/15 に写真山行、6/2 に新実行委員会。

⑭デジタルメディア委員会(井上)：特になし。

⑮事業企画委員会(毛利)：夏山フェスター受付で「山の日」チラシを配布予定、青年部に協力を依頼。

⑯遭難対策委員会(山田)：副委員長に野崎雅之氏(青年部)が決定。

４．その他

＊金華山での遭難(高橋)捜索の模様と結果の報告。高橋支部長と青年部が協力した。

出席者：小川、山田、高橋、佐野、和田、片岡、前田、井上、加藤、市川、藤嵜、南川、毛利、榊、

総務委員会　毛利邦男　記

ルー ム 日 誌

━・━　３月　━・━・━・━・━・━

１日（火）県岳連
２日（水）青年部/TNCC（同好会）
３日（木）写真展委員会
４日（金）古道塩の道
７日（月）支部友委員会／
　　支部報編集会議
１０日（木）自然保護委員会
１４日（月）登山教室委員会／
　　支部報編集会議

１５日（火）ボランティア委員会
１６日（水）山行委員会／総務委員会
１７日（木）東海学生山岳連盟
１８日（金）山行委員会
２２日（火）猿投の森運営委員会
２３日（水）常務委員会／
支部報編集会議
２４日（木）技術向上委員会
２５日（金）登山教育委員会
２８日（月）図書委員会

━・━　４月　━・━・━・━・━・━

１日（金）支部報発送作業
４日（月）支部友委員会
５日（火）県岳連
６日（水）青年部/TNCC（同好会）
１１日（月）登山教室委員会
１３日（水）支部友ミーティング
１４日（木）自然保護委員会
１５日（金）会計監査
１８日（月）図書委員会
１９日（火）ボランティア委員会／
デジタルメディア委員会
２０日（水）山行委員会／総務委員会
２１日（木）東海学生連盟
２２日（金）評議委員会
２６日（火）猿投の森運営委員会
２７日（水）常務委員会
２８日（金）技術向上委員会

━・━　５月　━・━・━・━・━・━

６日（金）古道塩の道
９日（月）登山教室委員会
１０日（火）県岳連
１１日（水）青年部/TNCC（同好会）
１２日（木）自然保護委員会
１６日（月）図書委員会
１７日（火）ボランティア委員会
１８日（水）山行委員会／総務委員／
正副支部長会議
１９日（木）東海学生山岳連盟
２０日（金）森の音楽祭実行委員会
２１日（土）支部総会・猿投の森づく
りの会総会
２４日（火）猿投の森運営委員会
２５日（水）常務委員会
２６日（金）技術向上委員会/
夏山フェスタ実行委員会
２７日（金）東海学生山岳連盟春の総
会・新人歓迎会

会員異動

入会：原　奈緒(15904)　小林智佐(15905)
立松美保(15907)　加藤孝雄(15914)
岡島慎治(15915)　岡島朋子(15916)
森田峰彦(15933)　林 康太郎(15935)
三浦千明（15937）　木全紀之（15946）
村井智恵（15950）　鈴木愛子（15953）
荒木　岳（15959）　原口敬次（15960）
大矢英詞（15969）　松崎祥平（15985）

退会：前田純子(14895)　安藤直彦(10163)
森　昌好（12842）　猿山昌夫（7050）
富永明孝(9679)　岩野浩幸(14929)
堀尾綾平（14987）

INFORMATION

【森の音楽祭実行委員会からのお知らせ】

第8回森の音楽祭2016を下記要領にて開催します。　皆さんの参加をお待ちしています。

内容:猿投の森特設会場入り口でアルプホルンの演奏でお迎えした後、東海学園交響楽団によるベートーベン作曲　交響曲第9番　ニ短調作品125「合唱」の演奏を楽しんでいただきます。

昼食後は希望者による①森の観察会(人数制限あり)　②猿投山山頂をめざしたハイキングなどを楽しんで頂きます。

開催日：10月22日(土)

場　所:県有林やまじの森(猿投の森)特設会場
（雨天の場合は瀬戸蔵“つばきホール”にて
アルプホルンと交響楽団の演奏のみ開催）

参加費：500円

集合場所・時間：

名鉄瀬戸線　尾張瀬戸駅前　午前８時～９時

瀬戸駅から猿投の森入口まで無料バスでの送迎、バス下車後、音楽会場までは徒歩(約２km)。

申込方法：ハガキ・ファックス(東海支部森の音楽祭実行委員会 宛)又は、e-mail(メールアドレス：sanagenomori@gmail.com)

問合せ先：毛利邦男

森の音楽祭際実行委員会　毛利邦男

【自然保護委員会からのお知らせ】

今年も恒例の自然観察山行を計画いたしました。内容は下記の要領で実施します。関心の

ある方ご一緒しませんか。
　支部員の皆様方が多数ご参加くださる様ご案内致します。

テーマ:リニア中央新幹線の建設が南アルプスの自然環境に与える影響について学ぶ。
　その他大鹿村における自然環境と歴史・文化等を視察する。
行先:長野県下伊奈郡大鹿村鹿塩その周辺地区
期　日:　2016年9月10日(土)～11日(日)
　　1泊2日
交通手段:　自家用車　参加者のマイカー便乗
参加費　:　約15,000円～18,000円予定
宿泊場所:　大鹿村　延齢草
予定人員:　10名　(先着順)
申込期日:　8月11日(木)山の日まで
申込み先:　自然保護委員　中村鎮雄
　FAX　052-799-2876　携帯090-3445-7876
　Eメール:yu11ko2sa3a1@tg.commufa.jp
詳細は参加申込み者に行程等詳細決定後ご案内します。

写真展実行委員会　南川陸男

【写真展実行委員会からのお知らせ】
　下記のような写真撮影山行を企画しています。是非、参加をご検討ください。
　写真撮影山行では、登攀・歩行を少なくし、写真を撮影できる自由時間を多くした、山の景色や花などの撮影対象が多い場所への山行を計画しています。カメラはコンパクトデジカメ、三脚無しでもOKです。

---

① 涸沢
- 月日:9月26日～28日　2泊3日
- 交通手段:公共交通機関
- 宿泊:涸沢ヒュッテ
- 撮影対象:紅葉の涸沢と穂高連峰
　　運がよければ涸沢からのﾓﾙｹﾞﾝﾛｰﾄ
- 申込締切:7月末

② 立山天狗原
- 月日:10月1日～2日　1泊
- 交通手段:公共交通機関
- 宿泊:天狗原山荘
- 撮影対象:紅葉の立山連峰、天狗平、弥陀ヶ原
- 申込締切:8月末

③ 裏剣、仙人池、黒部下の廊下
- 月日:10月6日(木)から9日(日)
　　3泊4日
- 交通手段:公共交通機関
- 宿泊:山小屋(剣沢小屋、仙人池、宇奈月温泉など)
- 撮影対象:裏剣(仙人池、池の平)
- 備考:縦走、若干体力が必要。
- 申込締切:8月末

④ 馬場島
- 月日:10月下旬から11月5日までのうちの
　　1泊2日〈詳細日程未定〉
- 交通手段:公共交通機関
- 宿泊:馬場島荘
- 撮影対象:剣の大王杉、紅葉の剣岳
- 申込締切:9月末

＊月日や行程などは参加希望者との相談で変更する可能性があります。
＊参加希望、問い合わせは、
井上(090-6590-6669、hinoue@sb.starcat.ne.jp)または、写真展実行委員までご連絡ください。

写真展実行委員会　井上寛之

【デジタルメディア委員会からのお知らせ】
　東海支部ホームページへのログイン方法
支部員 ﾕｰｻﾞｰ名:shibuin01　ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:8364
支部友 ﾕｰｻﾞｰ名:shibuyu01　ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ:7294
会員専用ページを閲覧できます。

デジタルメディア委員会　井上寛之

訂正とお詫び
　前回号の表紙の写真のキャプションに間違いがありました。　左上が、ヤクシソウ　左下は、ガガイモが正しい説明になります。

編集後記
　今年で第4回となる「夏山フェスタ」は、7410名の来場者があった。来年も開催が決まっている。若い来場者も多くなってきた。さらに、目的をもって来る来場者も増えてきたようだ。
　今後は若い高橋新支部長のもとで、目の肥えた来場者の増加が期待できる企画を提案して欲しい。

星　一男

海外トレッキングのパイオニア！

世界の山旅を手がけて47年

アルパインツアーサービス株式会社

“山仲間でオリジナルツアーを企画しませんか？”
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2（第3千福ビル3階） 052-581-3211 アルパインツアー 検索 www.alpine-tour.com

ATLAS TREK

ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。
観光庁長官登録旅行業第 1167 号 /（社）日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック
名古屋サービスデスク TEL:052-788-2422
（東京本社転送電話）
【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町 25 番地　三栄ハウス 202
TEL:03-3341-0030 FAX:03-3341-9200 E-Mail:info@atlastrek.co.jp
ホームページ　http://www.atlastrek.co.jp/

SINCE 1975
mont·bell

ウエア・ギアに
遊び心もそろえて
お待ちしています！

アウトドア用品は、
機能的なアイテムが豊富にそろう
「モンベルストア」へ。

名古屋店 Outlet	愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパークロフト 6階
長久手店 Outlet	愛知県長久手市片平1-901
名古屋みなと店 Outlet	愛知県名古屋市港区品川町2-1-6 イオンモール名古屋みなと 3階
各務原店	岐阜県各務原市那加萱場町3-8 イオンモール各務原 2階
長島店 Outlet	三重県桑名市長島町浦安368 三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階
鈴鹿店	三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2 イオンモール鈴鹿 1階
新静岡店	静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1 新静岡セノバ 4階

Outlet アイコンのある店舗では、アウトレット商品も取り扱っています。

モンベル・カスタマー・サービス
0088-22-0031/TEL.06-6536-5740　www.montbell.jp
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

企 画・デザイン・印 刷

株式会社 ASAI 隆文社

株式会社　浅井隆文社
〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号
TEL (052) 451-6656　FAX (052) 451-6657
E-mail : ta@asai-rbs.co.jp

♣♣♣♣♣♣♣ OMC ♣♣♣♣♣♣♣

住いのコンサルタント

㈲ 富 士 見 企 画

〒460－0014
名古屋市中区富士見町８番８号

♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣♣

建設業許可を取りたい、日本国籍を取得したい（帰化）、遺言を公正証書で作成したい、戸籍謄本や除籍謄本を代行取得して欲しい、任意成年後見の相談をしたい、会計記帳を頼みたい等々

ご相談は行政書士の西山秀夫へ

〒460-0002名古屋市中区丸の内3丁目21番21号
（地下鉄・久屋大通駅から2分の）丸の内東桜ビル1004号室
TEL:090-4857-9130
URL: http://www.nygs-office.com/

㈱ワークシステムサービス

一般社団法人　日本自動車運行管理協会
一般社団法人　中部地区自動車管理業協会

・一般貸切旅客事業　・車両運行管理事業
・愛知県知事登録旅行業　・労働者派遣業
・ビル清掃管理事業　・介護支援事業

〒465-0021　名古屋市名東区猪子石３丁目113番地
TEL 052 (779) 8777㈹　FAX 052 (779) 0031
http://www.work-system.co.jp/